

泉南市民人權意識調查

報告書

<概要版>

1999 年 3 月
泉 南 市

はじめに

泉南市長 向 井 通 彦

本市は、「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。」という世界人権宣言及び基本的人権の尊重・国民主権・戦争放棄を三大原則とする日本国憲法の理念に基づき、すべての人々が真に人間として尊重され、差別のない公正な社会の実現に努めてまいりました。平成7年には、差別のない明るく住みよい国際都市・泉南市の実現に寄与することを目的とする「泉南市部落差別などあらゆる差別の撤廃と人権擁護に関する条例」、所謂、「人権条例」を施行し、必要な施策の積極的な推進に努めてきております。

さて、平成8年に出された地域改善対策協議会意見具申をみますと、同和問題の早期解決に関する基本認識として、「同和問題は、多くの人々の努力によって、解決に向けて進んでいるものの、残念ながら依然として我が国における重要な課題と言わざるを得ない。その意味で戦後民主主義の真価が問われると言えよう。また、国際社会における我が国の果たすべき役割からすれば、まずは足元とも言うべき国内において、同和問題など様々な人権問題を一日も早く解決するよう努力することは国際的な責務である。今後とも、国や地方公共団体はもとより、国民の一人一人が同和問題の解決に向けて主体的に努力していかなければならない。そのためには、基本的人権が保障された国民一人一人が、自分の課題として、同和問題を人権問題という本質から捉え、解決に向かって努力する必要がある。」と述べられております。

本市におきましては、平成3年度（1991年度）同和問題をはじめとする人権問題に関する意識の現状及び傾向を分析し、今後の啓発活動の課題と方向性を明らかにすることを目的に「泉南市民人権意識調査」を実施するとともに、調査結果を真摯に受けとめ、人権啓発・人権教育の積極的な推進に努めてきております。

今般、前回調査との経年度変化を探り、より今日的な視点から現状を分析し、今後の人権啓発・人権教育の効果的な推進に資するため、第2回「泉南市民人権意識調査」を実施いたしましたものがあります。今後は、この調査結果を踏まえ課題を明らかにし、同和問題をはじめあらゆる人権問題の早期解決を図るため必要施策の積極的な推進に努める所存であります。

終わりにになりましたが、本調査の実施にあたり多大のご支援・ご協力をいただきました市民の皆様方に厚くお礼申し上げ、報告書発刊のご挨拶といたします。

目 次

1．調査概要	1
2．回答者の属性	5
3．調査結果の概要	9
（１）人権や差別全般に対する意識	11
（２）同和問題に対する意識	28
（３）市の人権啓発事業に対する意識	54

1 . 調查概要

調査概要

1. 調査目的

本調査は、明るく住みよい国際都市にふさわしい「差別のない社会の実現」を具体化するため、同和問題を中心として市民の人権問題に関する意識の現状及び傾向を調査分析し、今後の啓発活動の課題と方向性を明らかにすることを目的とする。

2. 調査内容

- (1) 人権や差別全般に対する意識
- (2) 同和問題に対する意識
- (3) 市の人権啓発事業に対する意識

3. 調査設計

(1) 調査地域	泉南市全域
(2) 調査対象	市内在住の満16歳以上の男女市民 (但し、同和地区を除く)
(3) 標本数	2,500名
(4) 抽出方法	住民基本台帳および外国人登録原票より無作為抽出
(5) 調査方法	郵送配布・郵送回収
(6) 調査年度	平成10年度

4. 回収結果

割当 標本数	到達 標本数	不到達 標本数	回収調査 標本数	有効回収 標本数	回収率	有効 回収率
2,500	2,475	25	1,142	1,116	46.1%	45.1%

5. 報告書の見方

- (1) 回答は各質問の回答者数(N)を基数とした百分率(%)で示してある。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%を上下することがある。

回答者数(N)が少ない場合は比率の数字が動きやすいため、厳密な比較をすることはむずかしいので、回答の傾向をみる程度になる。

- (2) 本文中、表やグラフに次にあげるような表示がある場合、複数回答を依頼した質問である。

- ・MA%(Multiple Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選んでもらう場合
 - ・3LA%(3 Limited Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものを3つまで選んでもらう場合
 - ・2LA%(2 Limited Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものを2つまで選んでもらう場合
- 複数回答を依頼した質問では、回答比率の合計が100%を超える。

- (3) 図表では、コンピュータ入力の都合上、回答の選択肢を短縮している場合がある。

(4) 平成3年度の調査結果、平成7年度の大阪府の調査結果を参考データとして示している。

6. 調査の精度

この調査は標本調査であり、今回得られた結果から泉南市全体としての意見を推測することができる。この場合、標本誤差は次の式により近似値を求めることができる。

$$\varepsilon = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

ε = 標本誤差
 N = 母集団 (50,213 人)
 n = 回答者数 (1,116 人)
 P = 回答比率

【 標 本 誤 差 】

回答比率 (P)	標本誤差 (ε)
10%または90%	± 1.7%
20%または80%	± 2.3%
30%または70%	± 2.7%
40%または60%	± 2.8%
50%	± 2.9%

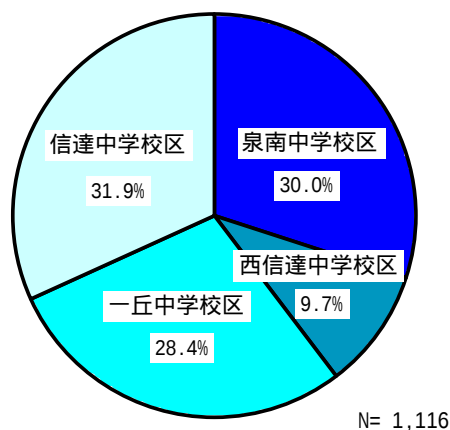
たとえば、性的役割分担に対する考えで「男女の役割を決めずに、その家庭にあった形で行う」と回答した人は、全体 (N=1,116) の 60.7%であった。このケースでは抽出に伴う誤差は上記の表より「±2.8%」であるから、泉南市では男女の役割を決めずに、その家庭にあった形で行うと考える人は、抽出誤差を補正すると 57.9~63.5%の間ということになる。

ただし、この計算式は、信頼度 95%に設定している。(信頼度を 99%にすると誤差の幅はさらに大きくなり、実用に不適當なため、95%を採用している。)

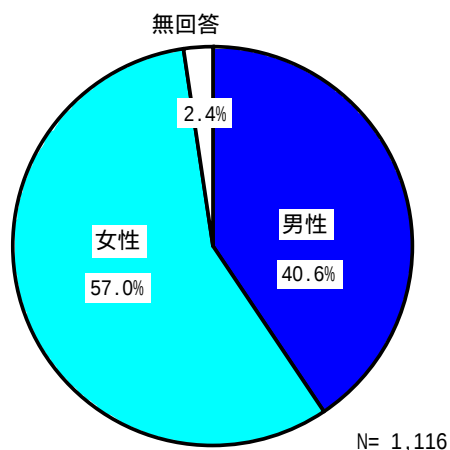
2 . 回答者の属性

回答者の属性

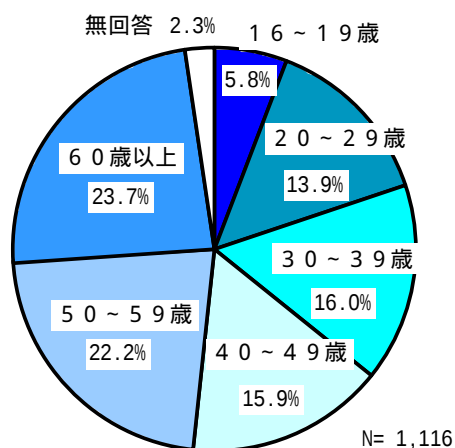
1. 居住校区



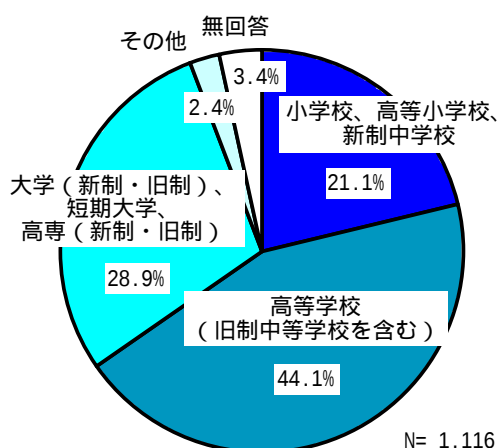
2. 性別



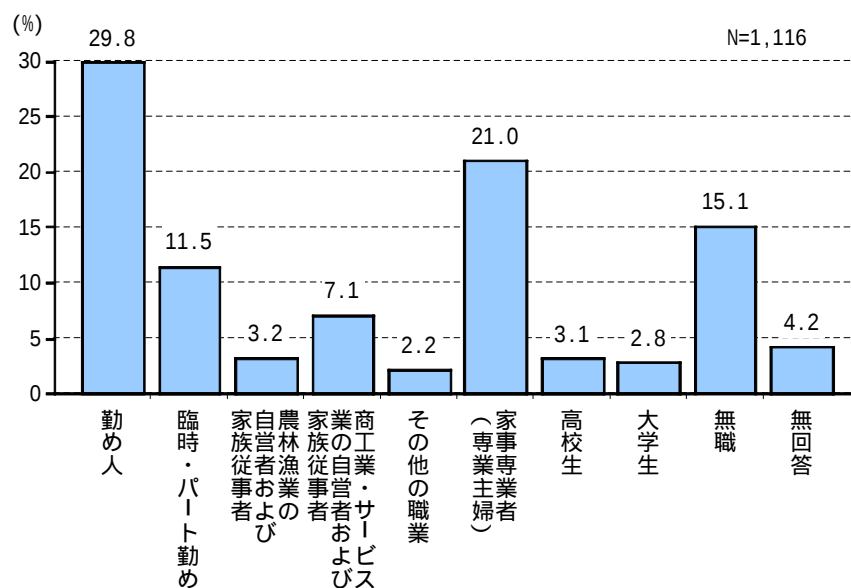
3. 年齢



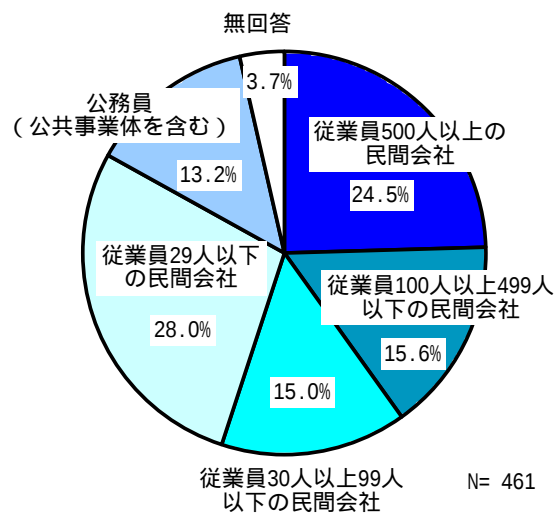
4. 最終学歴



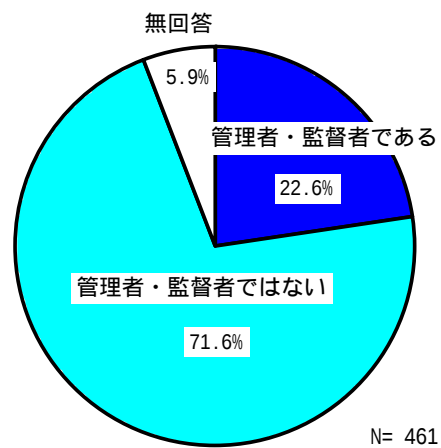
5. 職業



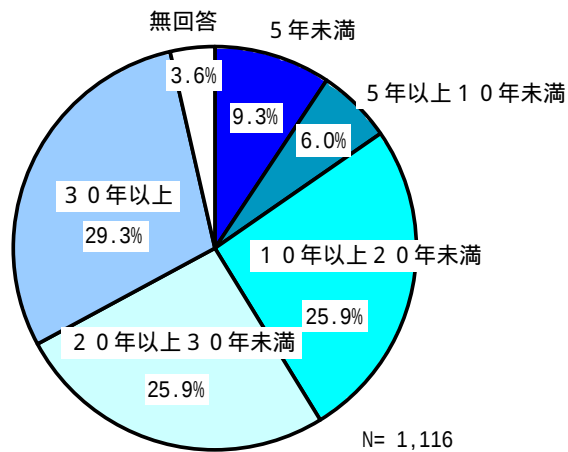
6．勤め先の従業員規模



7．勤め先での役職



8．居住年数

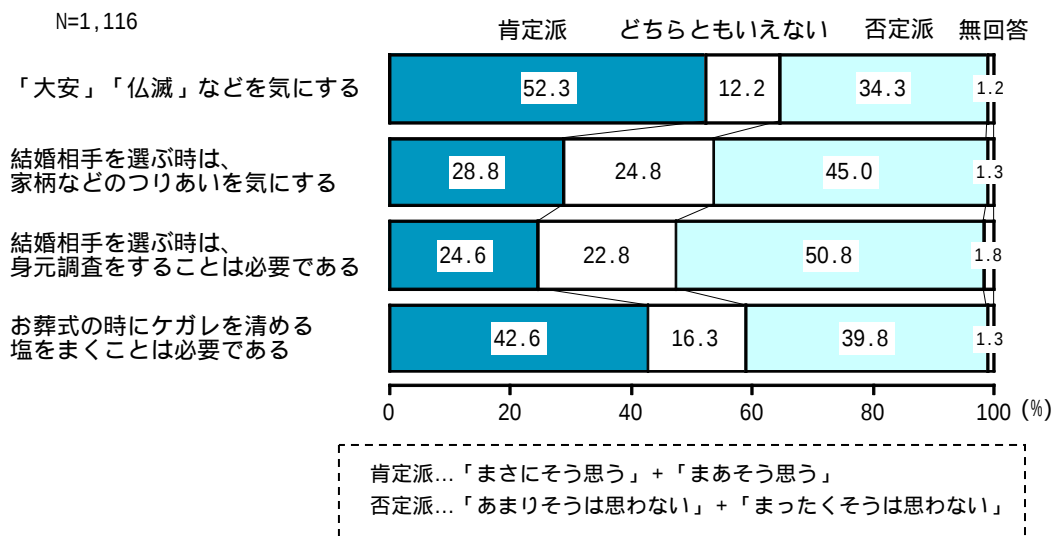


3 . 調査結果の概要

1. 人権や差別全般に対する意識

● 風習や伝統的な考え方に対する意識

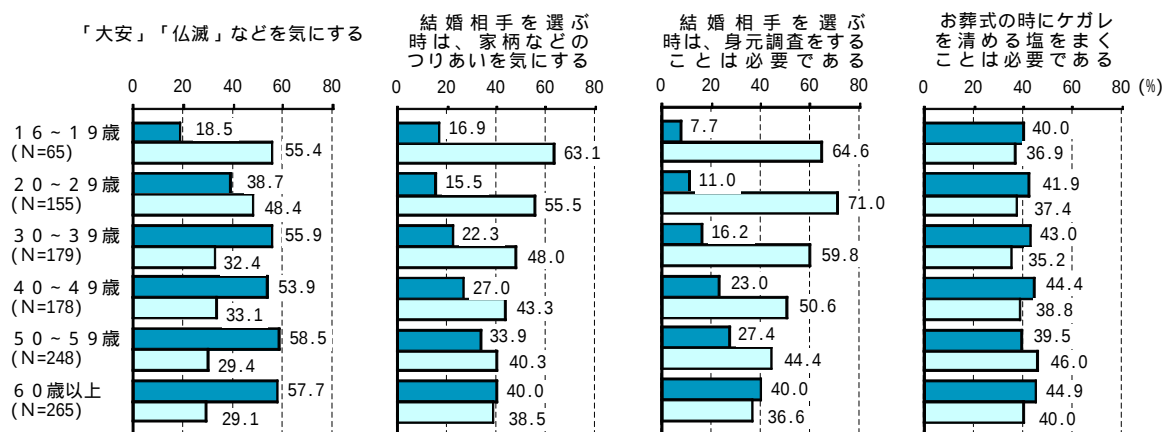
問1．次にあげる風習や伝統的な考え方について、どう思いますか。 から のそれ
それぞれについてお答えください（○はそれぞれ1つつつ）



風習や伝統的な考えに対する意識をみると、『「大安」「仏滅」などを気にする』は肯定派、
『結婚相手を選ぶ時は、家柄などのつりあいを気にする』、『結婚相手を選ぶ時は、身元調査
をすることは必要である』は否定派が多くなっています。『お葬式の時にケガレを清める塩
をまくことは必要である』は肯定派・否定派がそれぞれ4割を占めています。

年齢別にみると、『お葬式の時にケガレを清める塩をまくことは必要である』を除く考え
では、若い年代ほど否定派の割合が高く、意識している人が少なくなっています。

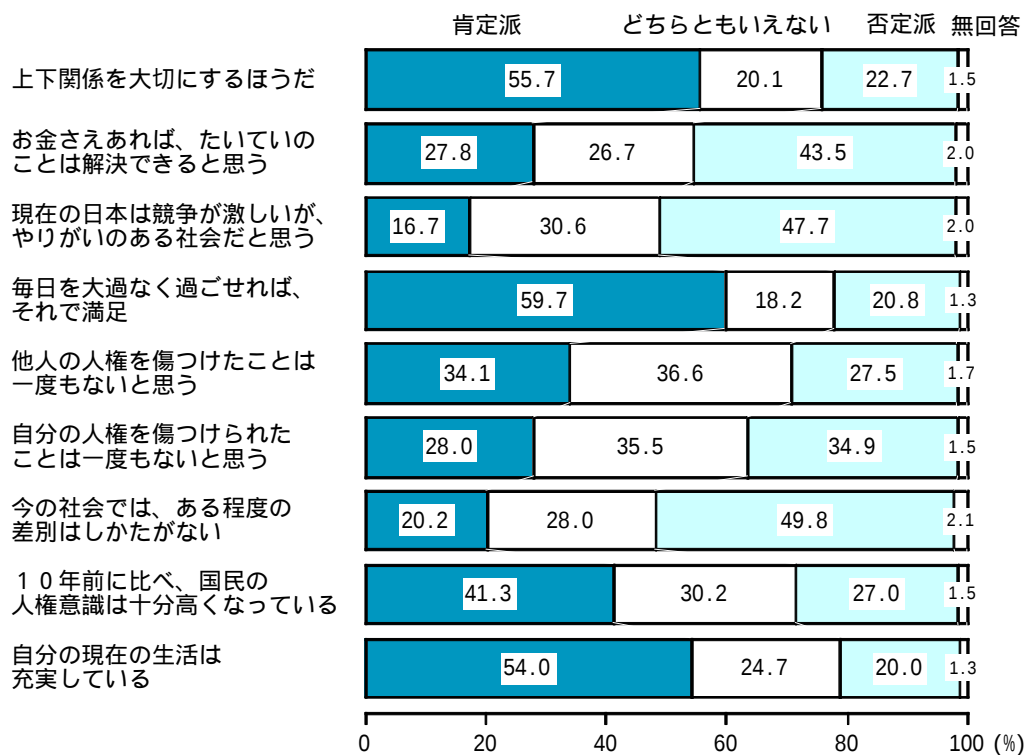
【年齢別】



●生活意識

問2．次にあげる考え方や意見について、どう思いますか。 から のそれぞれについてお答えください（○はそれぞれ1つずつ）。

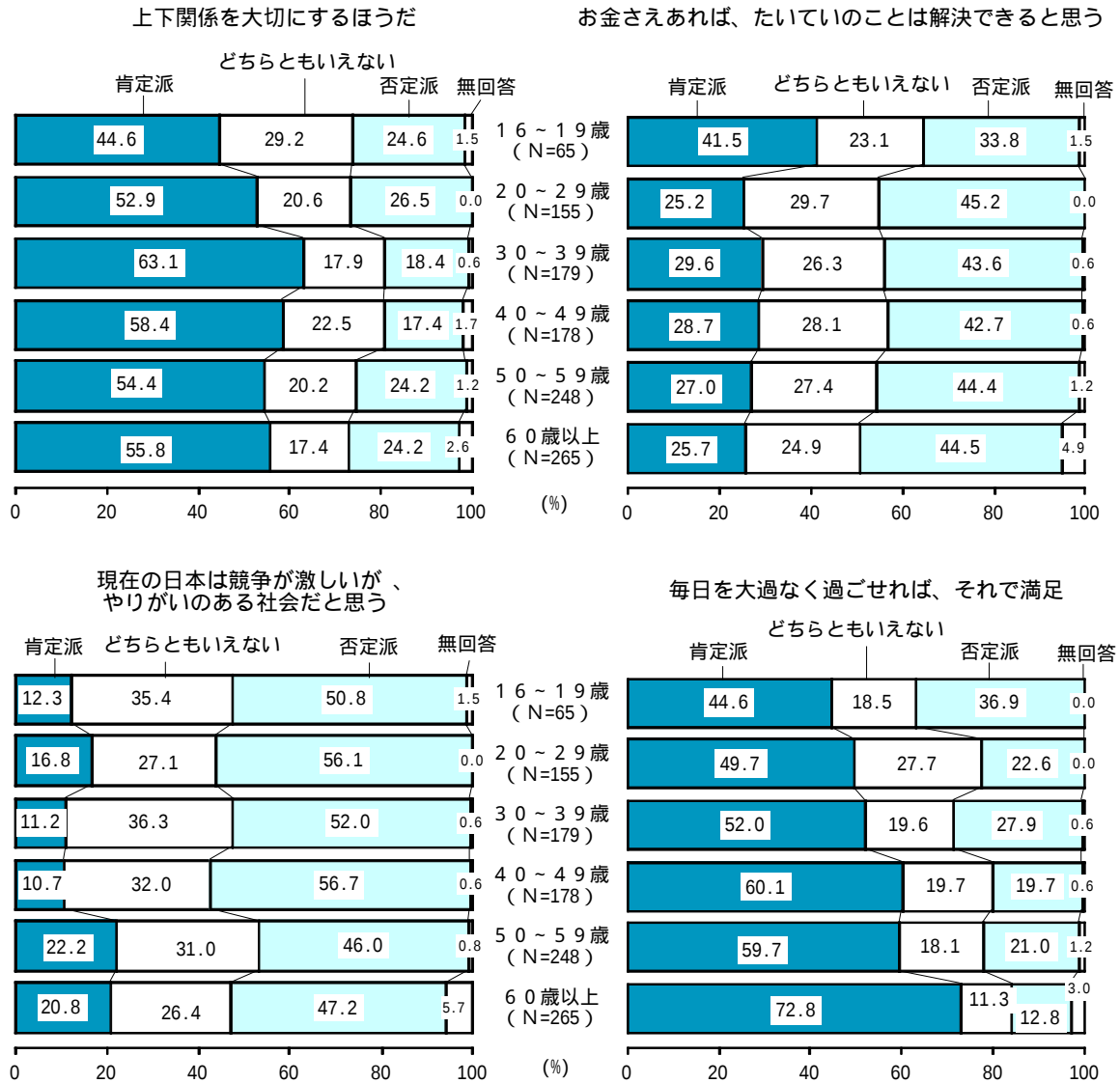
N=1,116



肯定派...「まさにそう思う」+「まあそう思う」
否定派...「あまりそうは思わない」+「まったくそうは思わない」

生活意識をみると、『上下関係を大切にするほうだ』、『毎日を大過なく過ごせれば、それで満足』、『10年前に比べ、国民の人権意識は十分高くなっている』、『自分の現在の生活は充実している』は肯定派が多くなっています。これに対し、『お金さえあれば、たいていのことは解決できると思う』、『現在の日本は競争が激しいが、やりがいのある社会だと思う』、『今の社会では、ある程度の差別はしかたがない』は否定派が多くなっています。

【年齢別】

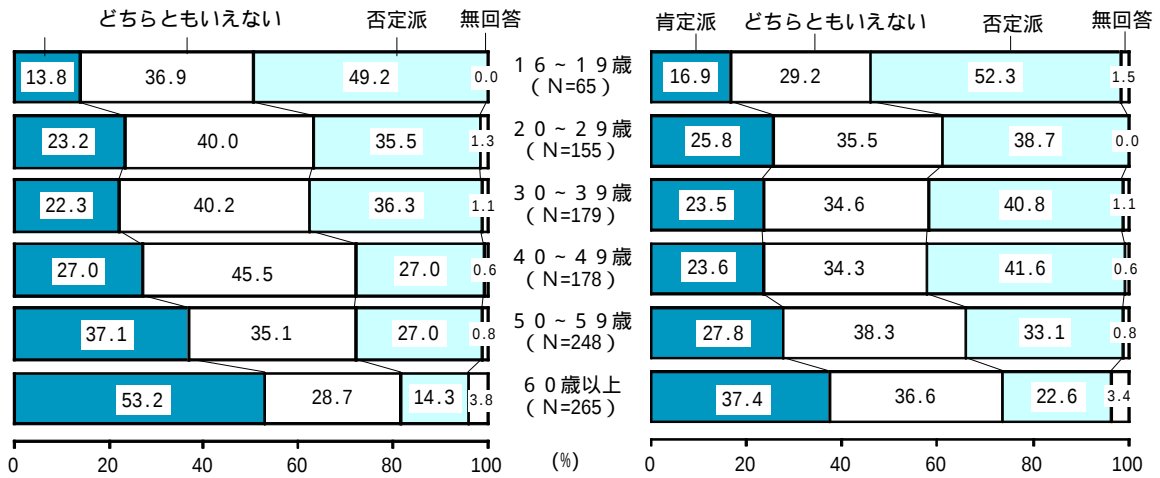


年齢別にみると、『上下関係を大切にするほうだ』は、いずれの年齢層も肯定的意見が否定的意見を上回っているものの、19歳以下ではその割合が最も低く、「どちらともいえない」という中間的意見が約3割を占めています。『お金さえあれば、たいいていのことは解決できると思う』は、19歳以下では肯定的意見が否定的意見を上回っていますが、他の年齢層では否定的意見が肯定的意見を上回っています。『現在の日本は競争が激しいが、やりがいのある社会だと思う』は、否定的意見が肯定的意見を大きく上回っているものの、50歳以上の高年齢層では肯定的意見がやや高く、2割を占めています。『毎日を大過なく過ごせれば、それで満足』は、年齢が上がるにつれて肯定的意見の割合が増加しており、60歳以上では7割に達しています。

【年齢別】

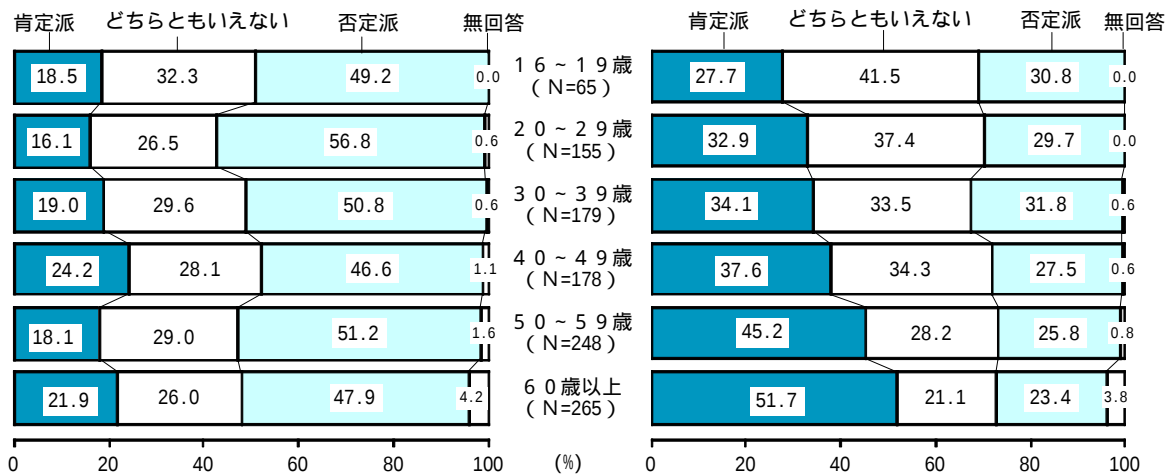
他人の人権を傷つけたことは一度もないと思う

自分の人権を傷つけられたことは一度もないと思う



今の社会では、ある程度の差別はしかたがない

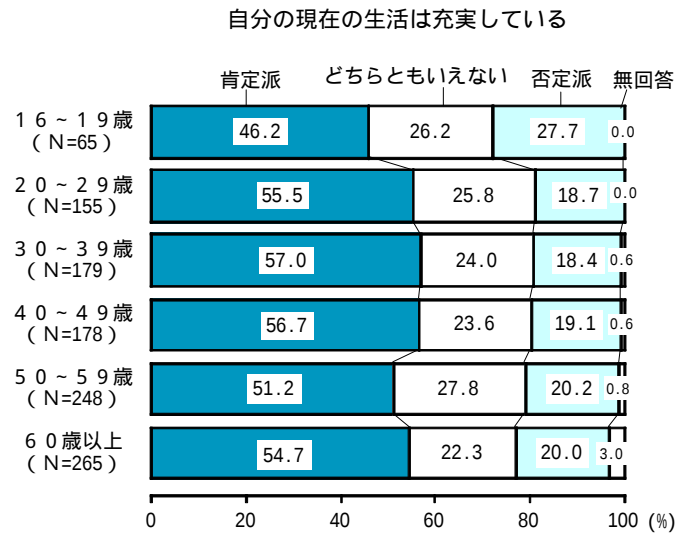
10年前に比べ、国民の人権意識は十分高くなっている



年齢別にみると、『他人の人権を傷つけたことは一度もないと思う』は、19歳以下では否定的意見が約半数を占めていますが、年齢が上がるにつれてその割合は減少し、肯定的意見が増加しています。60歳以上になると、約半数が肯定的意見を回答しています。『自分の人権を傷つけられたことは一度もないと思う』は、19歳以下では約半数、20～49歳までは約4割が否定的意見を回答しており、肯定的意見を上回っています。50歳以上の高齢層になると、肯定的意見の割合が増加し、60歳以上では否定的意見を上回っています。

『今の社会では、ある程度の差別はしかたがない』は、いずれの年齢層も否定的意見が肯定的意見を上回っています。『10年前に比べ、国民の人権意識は十分高くなっている』は、39歳以下では、肯定、否定、中間的意見の3つに意見が分かれています。50歳以上になると肯定的意見の割合が増えており、60歳以上では約半数を占めています。

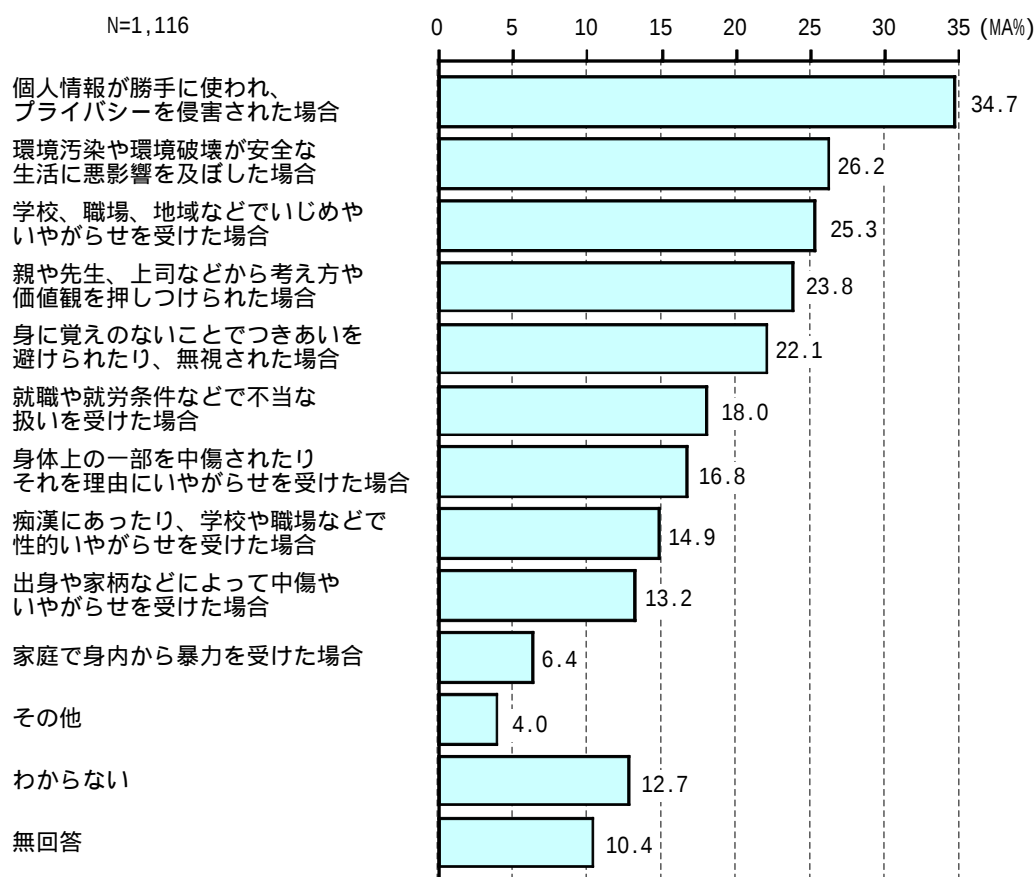
【年齢別】



年齢別にみると、『自分の現在の生活は充実している』は、肯定的意見は19歳以下で50%に達しておらず、20歳以上に比べやや低くなっています。

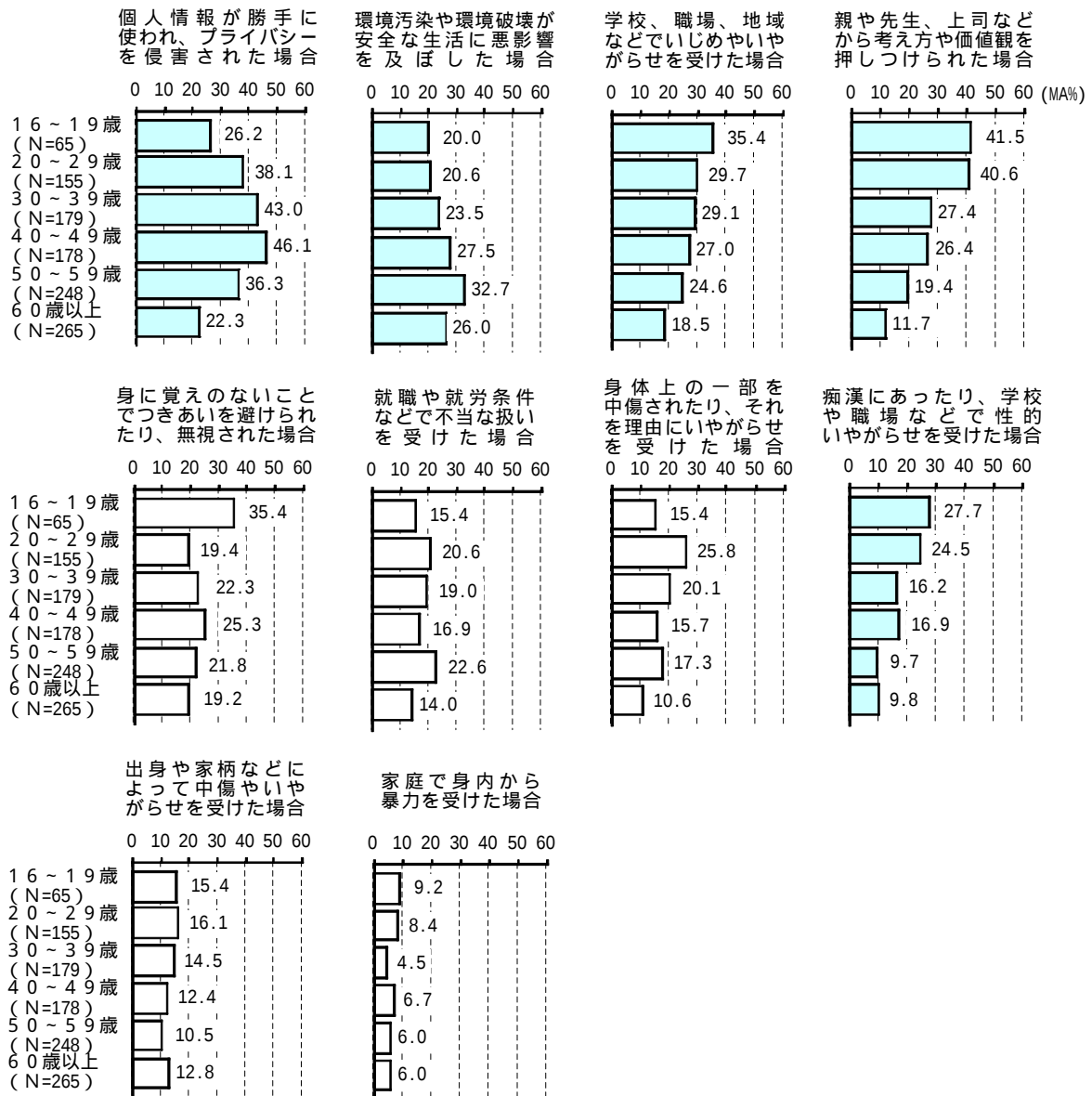
● 人権侵害や人権が守られていないと感じた場合

問3．あなたはこれまで、人権侵害や人権が守られていないと感じたのは、どのような場合ですか（○はいくつでも）。



人権侵害や人権が守られていないと感じた場合として、「個人情報が勝手に使われ、プライバシーを侵害された場合」が 34.7%と最も多く、続いて「環境汚染や環境破壊が安全な生活に悪影響を及ぼした場合」(26.2%)、「学校、職場、地域などでいじめやいやがらせを受けた場合」(25.3%)、「親や先生、上司などから考え方や価値観を押しつけられた場合」(23.8%)などが多くなっています。

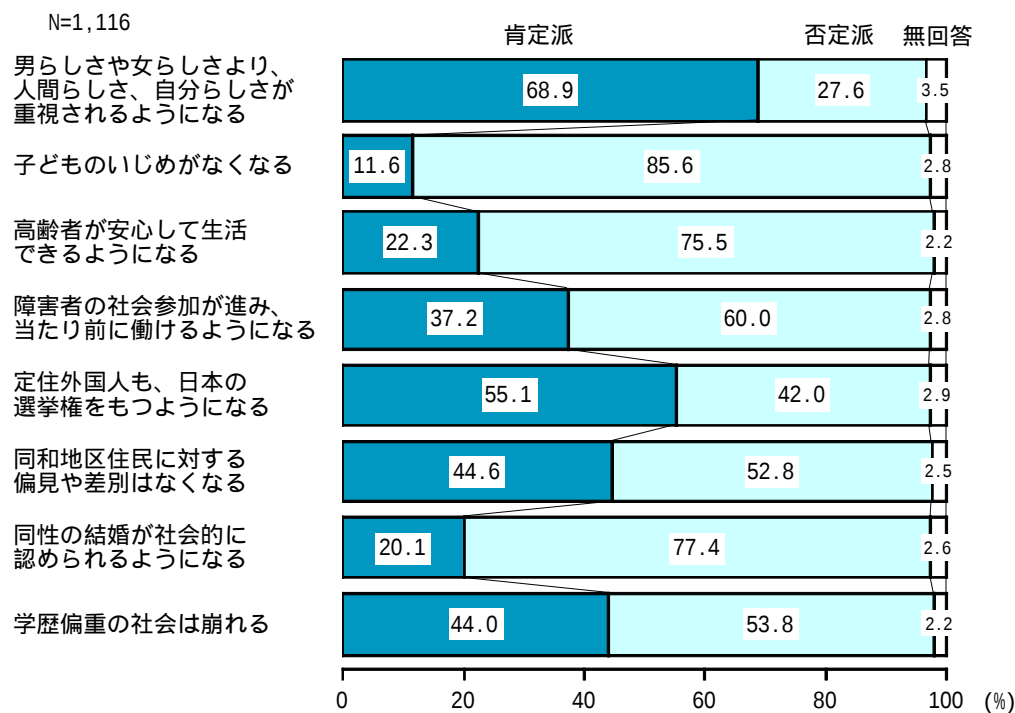
【年齢別】



年齢別にみると、「個人情報勝手に使われ、プライバシーを侵害された場合」は30～40歳代の中年年齢層の割合が最も高くなっています。「環境汚染や環境破壊が安全な生活に悪影響を及ぼした場合」は、年齢が上がるにつれてやや増加しており、50歳代では3人に1人は回答しています。「学校、職場、地域などでいじめやいやがらせを受けた場合」、「親や先生、上司などから考え方や価値観を押しつけられた場合」、「痴漢にあたり、学校や職場などで性的いやがらせを受けた場合」については、29歳までの低年齢層の割合が高く、年齢の上昇とともに減少しています。

● 20年後の人権問題について

問4．人権に対する取り組みが進んでいますが、あなたは20年後には、人権問題はどうなっていると思いますか。 から のそれぞれについてお答えください（○はそれぞれ1つずつ）

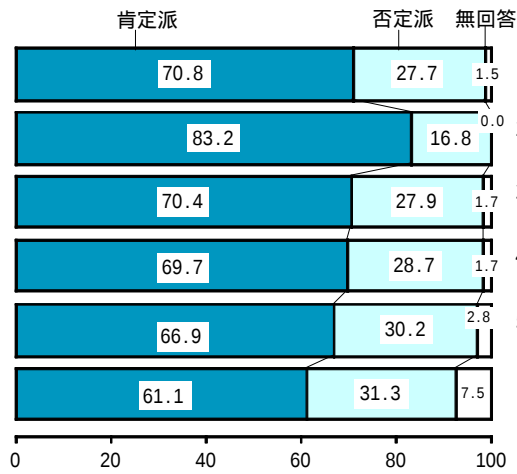


肯定派...「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」
否定派...「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」

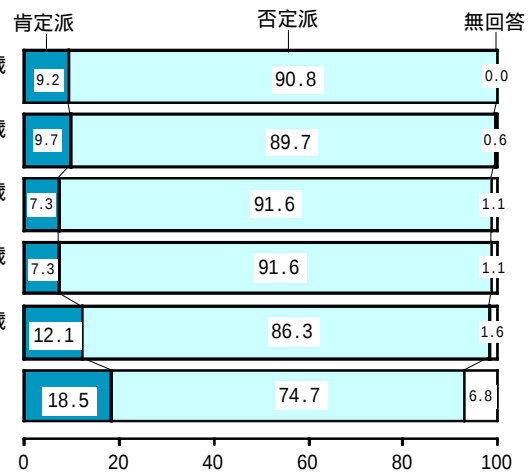
20年後の人権問題についての考えをみると、『男らしさや女らしさより、人間らしさ、自分らしさが重視されるようになる』、『定住外国人も、日本の選挙権をもつようになる』は肯定派が半数以上を占めています。それ以外の項目については、肯定派よりも否定派の方が上回っています。なかでも、『子どものいじめがなくなる』、『高齢者が安心して生活できるようになる』、『同性の結婚が社会的に認められるようになる』は7割以上が否定派となっています。

【年齢別】

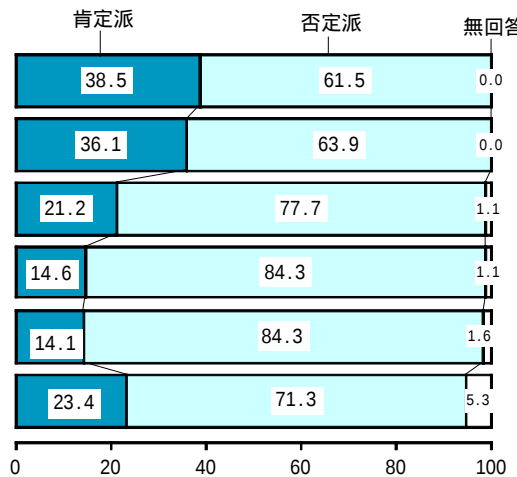
男らしさや女らしさより、人間らしさ、自分らしさが重視されるようになる



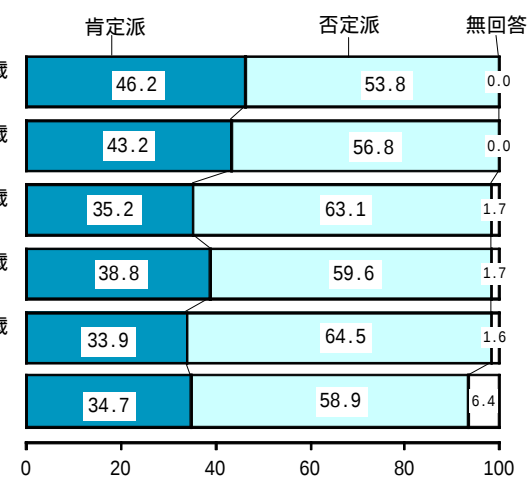
子どものいじめがなくなる



高齢者が安心して生活できるようになる



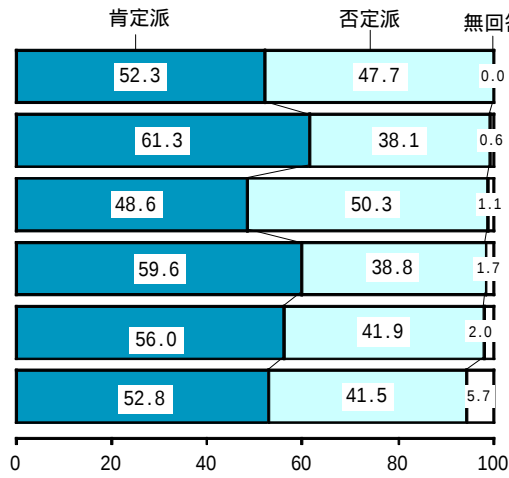
障害者の社会参加が進み、当たり前のように働けるようになる



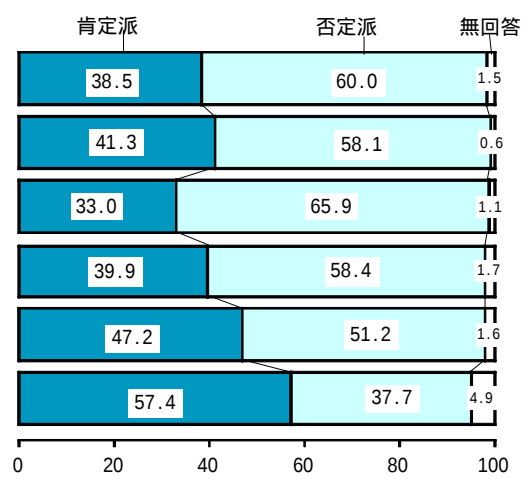
年齢別にみると、『男らしさや女らしさより、人間らしさ、自分らしさが重視されるようになる』は、年齢別に関係なく肯定的意見の割合が高く、20代では8割を占めています。『子どものいじめがなくなる』は、否定的意見の割合が大部分を占めていますが、50歳以上の高年齢層では肯定的意見の割合がわずかながら増えています。『高齢者が安心して生活できるようになる』は、30歳以上の中高年齢層では大部分が否定的意見を回答しているのに対し、29歳までの低年齢層ではその割合がやや低く、肯定的意見が3割強を占めています。『障害者の社会参加が進み、当たり前のように働けるようになる』は、若い年齢ほど肯定的意見の割合が高くなっています。

【年齢別】

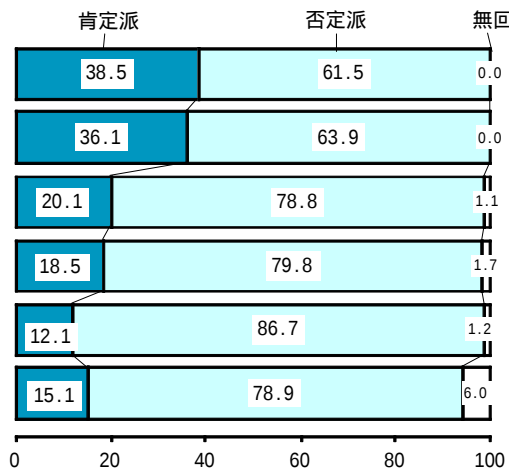
定住外国人も、日本の選挙権をもつようになる



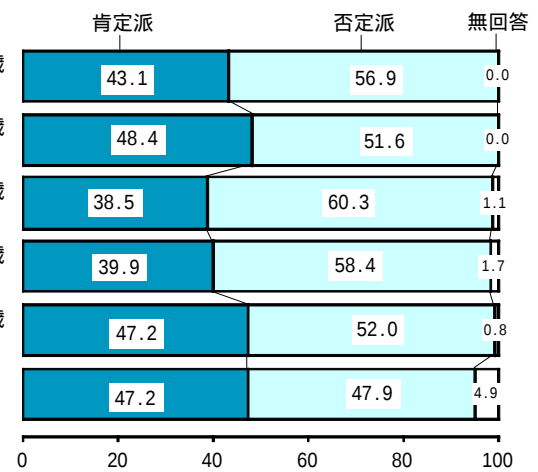
同和地区住民に対する偏見や差別はなくなる



同性の結婚が社会的に認められるようになる



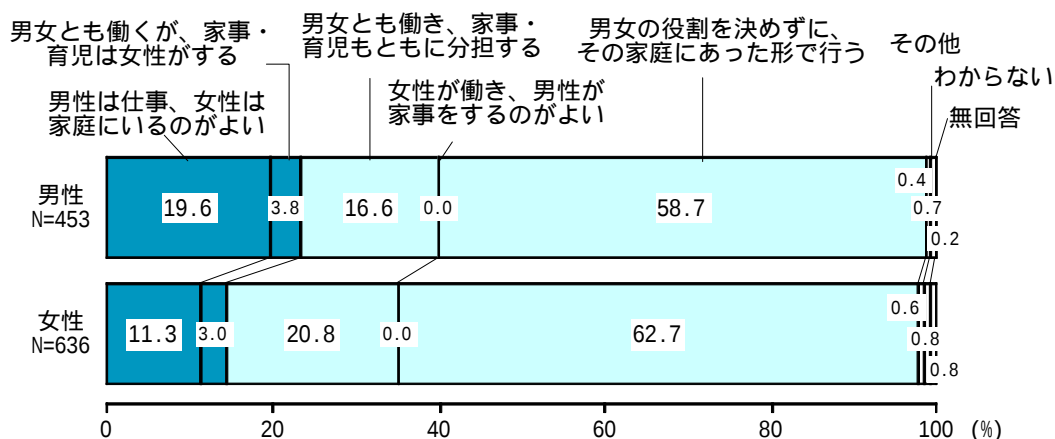
学歴偏重の社会は崩れる



年齢別にみると、『定住外国人も、日本の選挙権をもつようになる』は、19歳以下、30歳代では、肯定、否定の差が比較的小さく、意見がほぼ2分しています。『同和地区住民に対する偏見や差別はなくなる』は、年齢が上がるにつれて肯定的意見の割合が増加しており、60歳以上では否定的意見を上回っています。『同性の結婚が社会的に認められるようになる』は、いずれも否定的意見が大きく上回っていますが、29歳以下の低年齢層では肯定的意見の割合がやや高くなっています。『学歴偏重の社会は崩れる』は、30～40歳代の中年層では否定的意見がやや高くなっています。

● 性別役割分担に対する考え

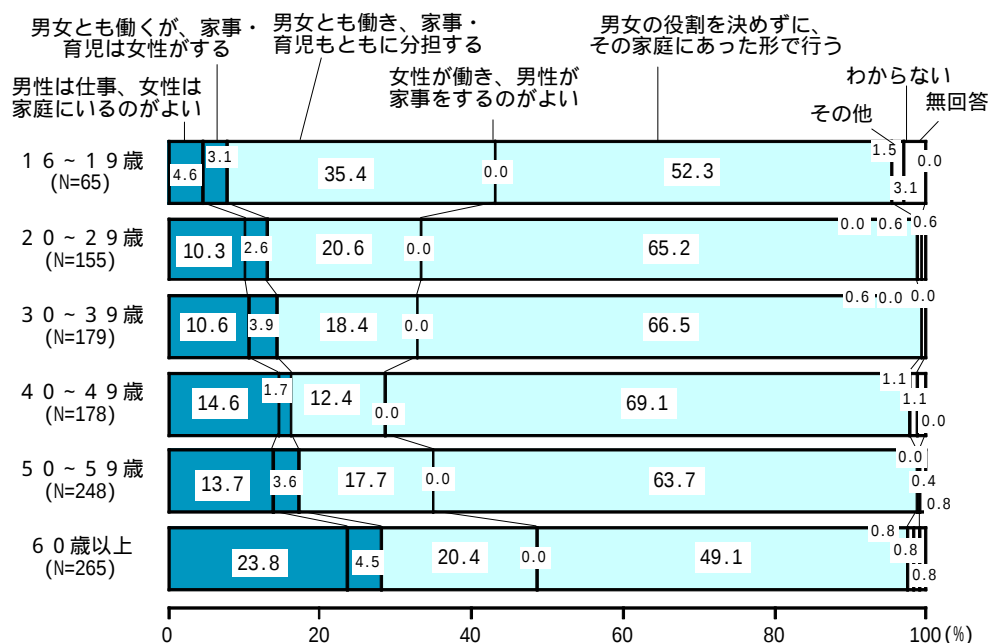
問5．仕事と家庭に関する男女の役割分担について、あなたのお考えに近いものはどれですか（○は1つ）



仕事と家庭に関する男女の性別役割分担についての考えをみると、男女ともに「男女の役割を決めずに、その家庭にあった形で行う」が約6割を占め、最も多くなっています。また、「男性は仕事、女性は家庭にいるのがよい」という固定的な性別役割分担意識は、男女ともに2割以下と低くなっていますが、女性に比べると男性の方がやや高くなっています。

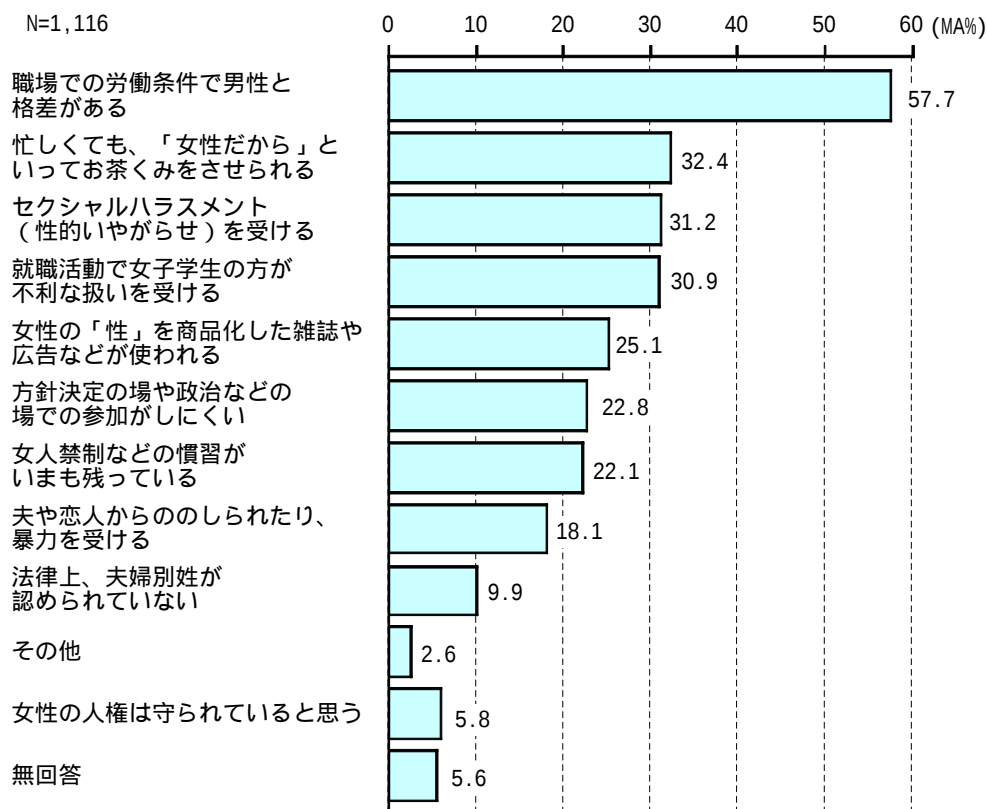
年齢別にみると、「男性は仕事、女性は家庭にいるのがよい」、「男女とも働くが、家事・育児は女性がする」という固定的な性別役割分担意識を持つ人は、19歳以下の割合が低く、60歳以上の割合が高くなっています。

【年齢別】



● 女性の人権が守られていないと思う場合

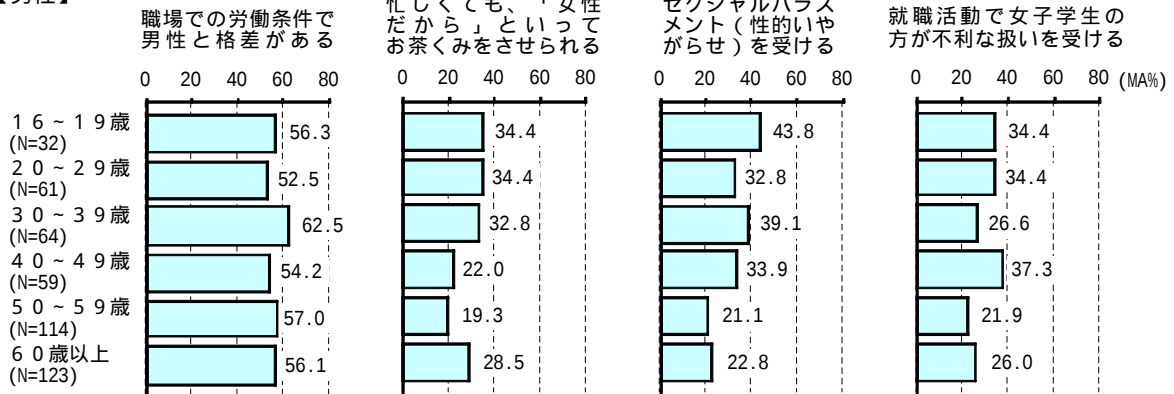
問6．あなたが、女性の人権が守られていないと思うのは、どのような場合ですか（○はいくつでも）



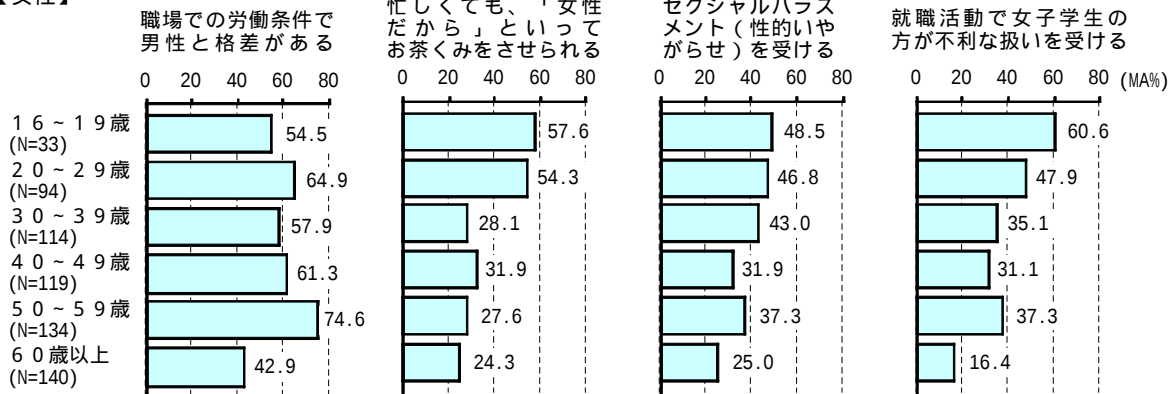
女性の人権が守られていないと思う場合は、「職場での労働条件で男性と格差がある」が57.7%と最も多く、次いで「忙しくても、「女性だから」といってお茶くみをさせられる」（32.4%）、「セクシャルハラスメント（性的いやがらせ）を受ける」（31.2%）、「就職活動で女子学生の方が不利な扱いを受ける」（30.9%）が多くなっています。

【性・年齢別】

【男性】



【女性】

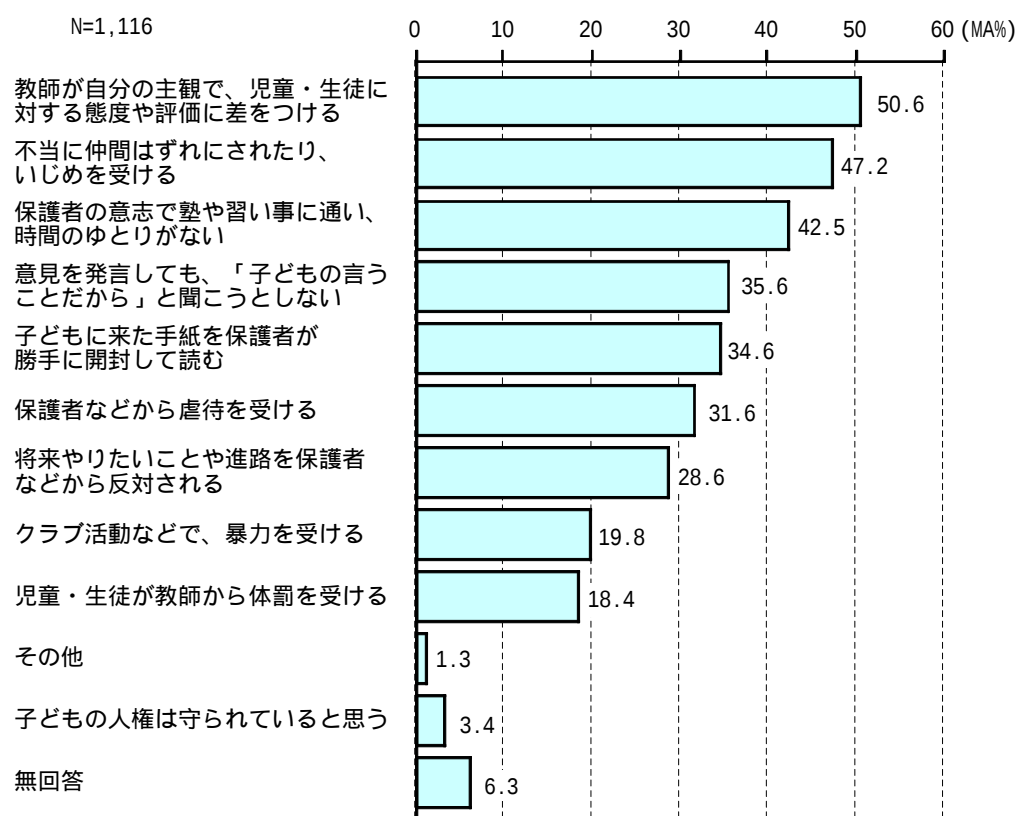


年齢別にみると、男性の場合、「職場での労働条件で男性と格差がある」は、いずれの年齢層も半数以上が回答しており、第1位にあげられています。「忙しくても、「女性だから」といってお茶くみをさせられる」は30歳代までの若い年齢層の割合が高くなっています。「セクシャルハラスメント(性的いやがらせ)を受ける」は、19歳以下では43.8%を占めていますが、20歳以上50歳未満の年齢層でも30%を超える割合を示しています。

女性の場合、60歳以上を除き過半数は「職場での労働条件で男性と格差がある」と回答しており、50歳代では74.6%と最も高くなっています。「忙しくても、「女性だから」といってお茶くみをさせられる」、「セクシャルハラスメント(性的いやがらせ)を受ける」、「就職活動で女子学生の方が不利な扱いを受ける」については、29歳までの低年齢層の割合が特に高くなっています。

● 子どもの人権が守られていないと思う場合

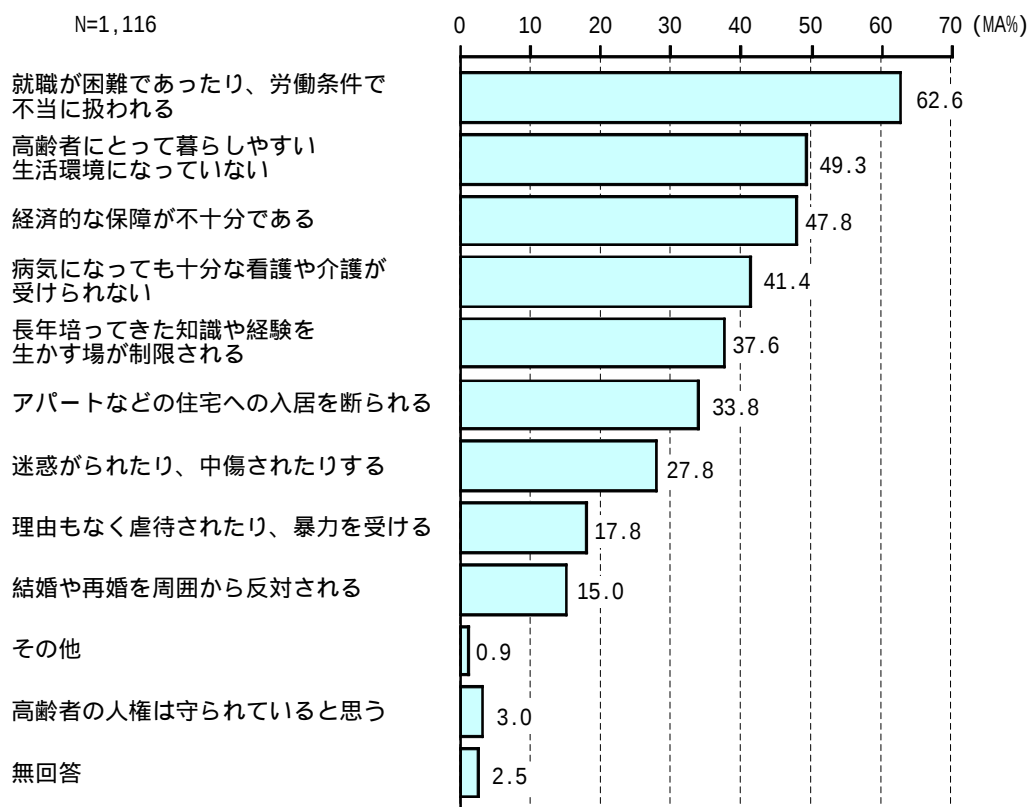
問7(1) . あなた自身が、子ども(18歳未満)の人権が守られていないと思う場合は、
どのような場合ですか(○はいくつでも)。



子どもの人権が守られていないと思う場合として、「教師が自分の主観で、児童・生徒に対する態度や評価に差をつける」(50.6%)、「不当に仲間はずれにされたり、いじめを受ける」(47.2%)、「保護者の意志で塾や習い事に通い、時間のゆとりがない」(42.5%)などが上位にあげられています。

●高齢者の人権が守られていないと思う場合

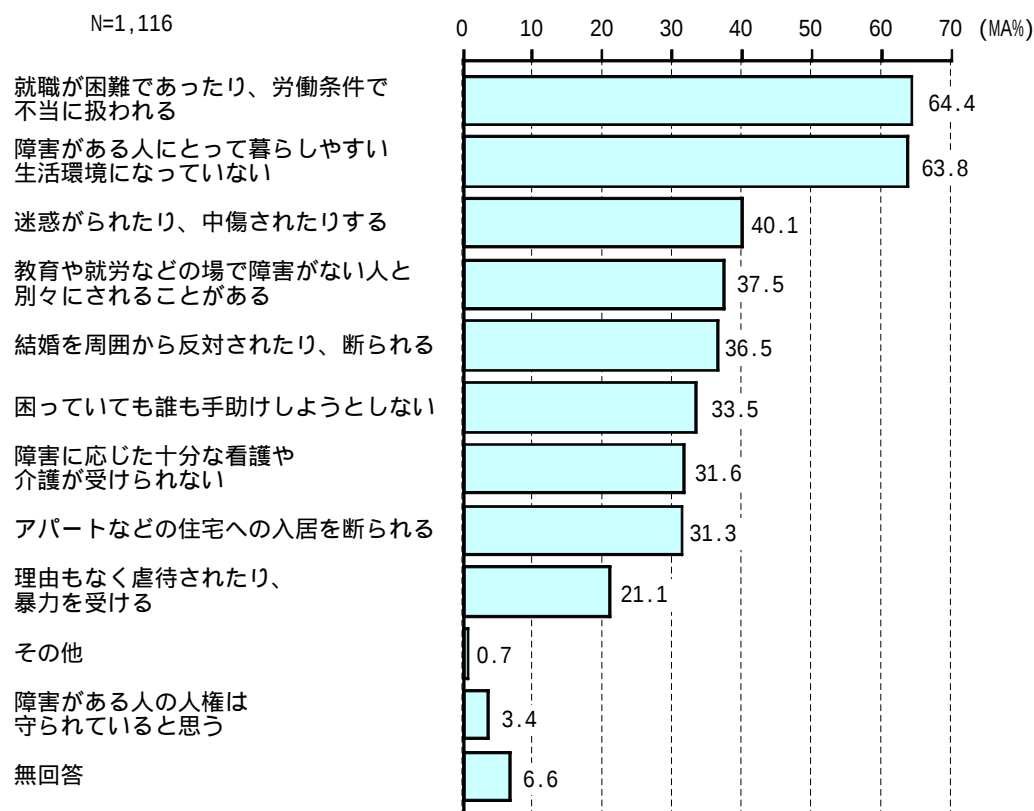
問7(2)．あなた自身が、高齢者の人権が守られていないと思う場合は、どのような場合ですか(。はいくつでも)



高齢者の人権が守られていないと思う場合として、「就職が困難であったり、労働条件で不当に扱われる」が62.6%と最も多く、「高齢者にとって暮らしやすい生活環境になっていない」(49.3%)、「経済的な保障が不十分である」(47.8%)、「病気になっても十分な看護や介護が受けられない」(41.4%)が次いで多くなっています。

● 障害者の人権が守られていないと思う場合

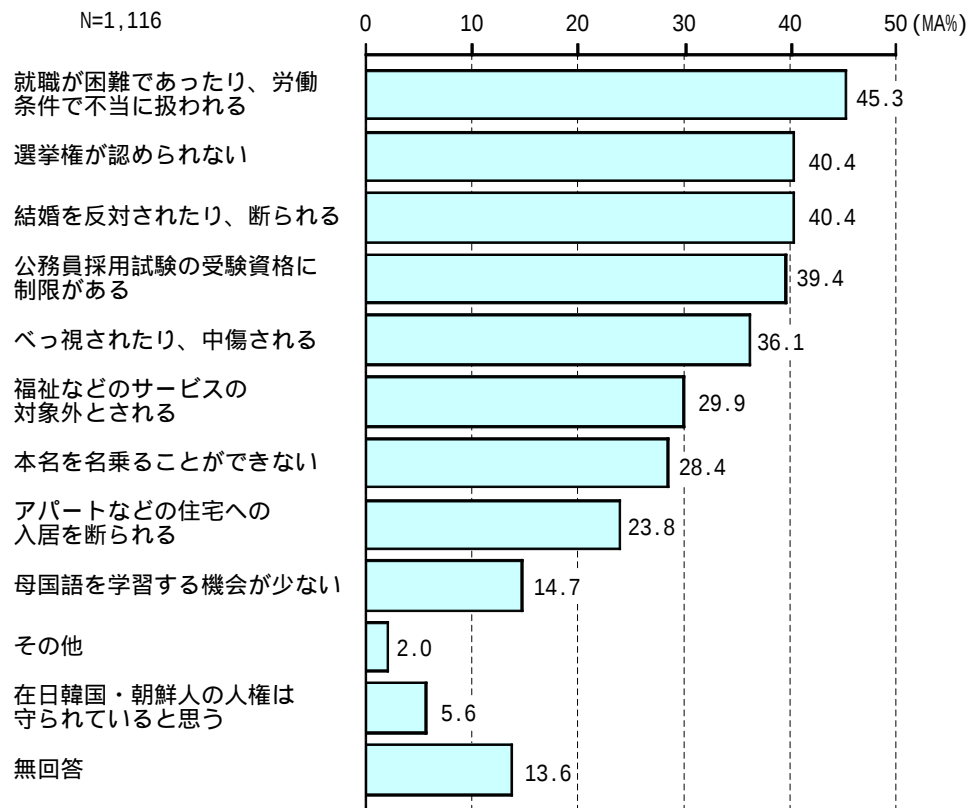
問7(3) . あなた自身が、障害がある人の人権が守られていないと思う場合は、どのような場合ですか(○はいくつでも)



障害者の人権が守られていないと思う場合として、「就職が困難であったり、労働条件で不当に扱われる」(64.4%)、「障害がある人にとって暮らしやすい生活環境になっていない」(63.8%)が特に多くなっています。

●在日韓国・朝鮮人の人権が守られていないと思う場合

問7(4)．あなた自身が、在日韓国・朝鮮人の人権が守られていないと思う場合は、どのような場合ですか（○はいくつでも）

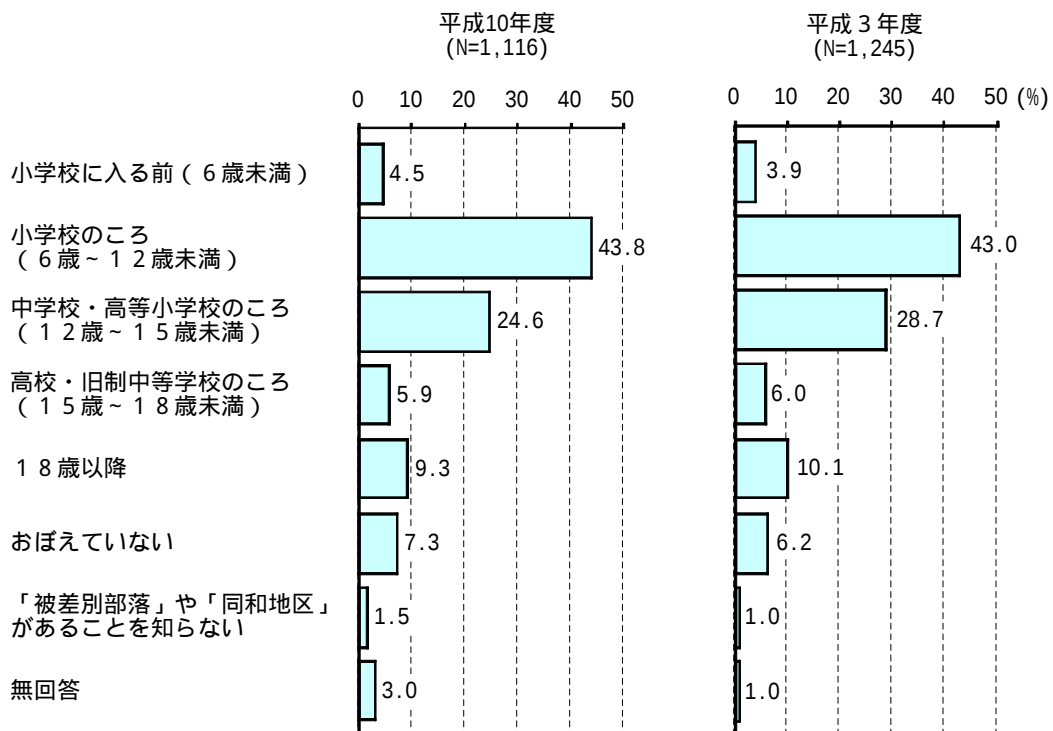


在日韓国・朝鮮人の人権が守られていないと思う場合として、「就職が困難であったり、労働条件で不当に扱われる」(45.3%)が最も多く、続いて「選挙権が認められない」「結婚を反対されたり、断られる」(ともに40.4%)「公務員採用試験の受験資格に制限がある」(39.4%)などが多くなっています。

2. 同和問題に対する意識

● 同和地区の認知時期

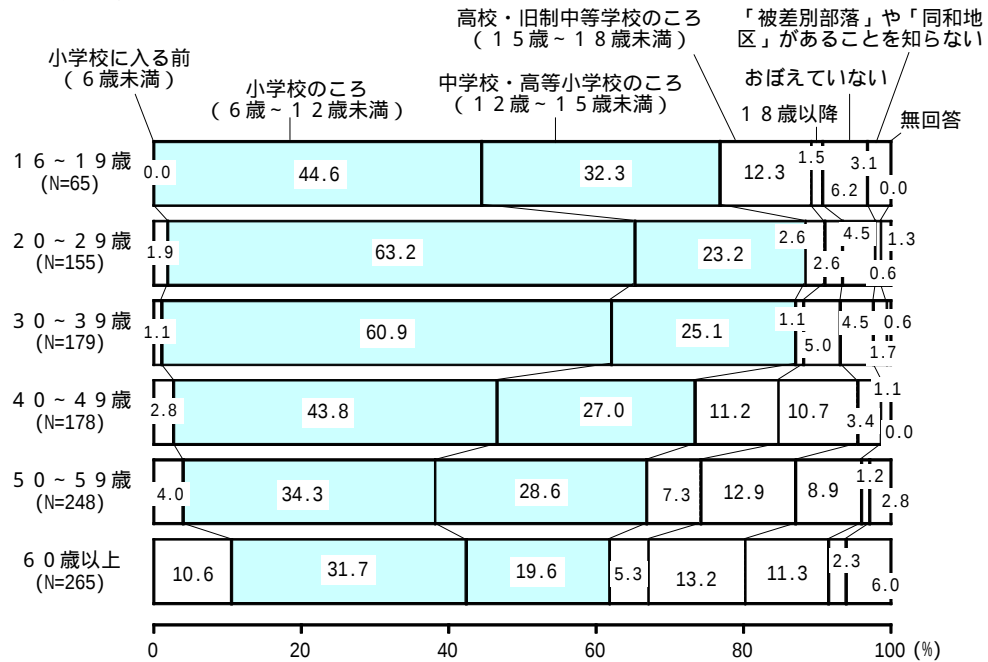
問 8 . あなたが、日本の社会に「被差別部落」とか「同和地区」などによばれて差別を受けている地区があることをはじめて知ったのはいつ頃のことですか（○は1つ）



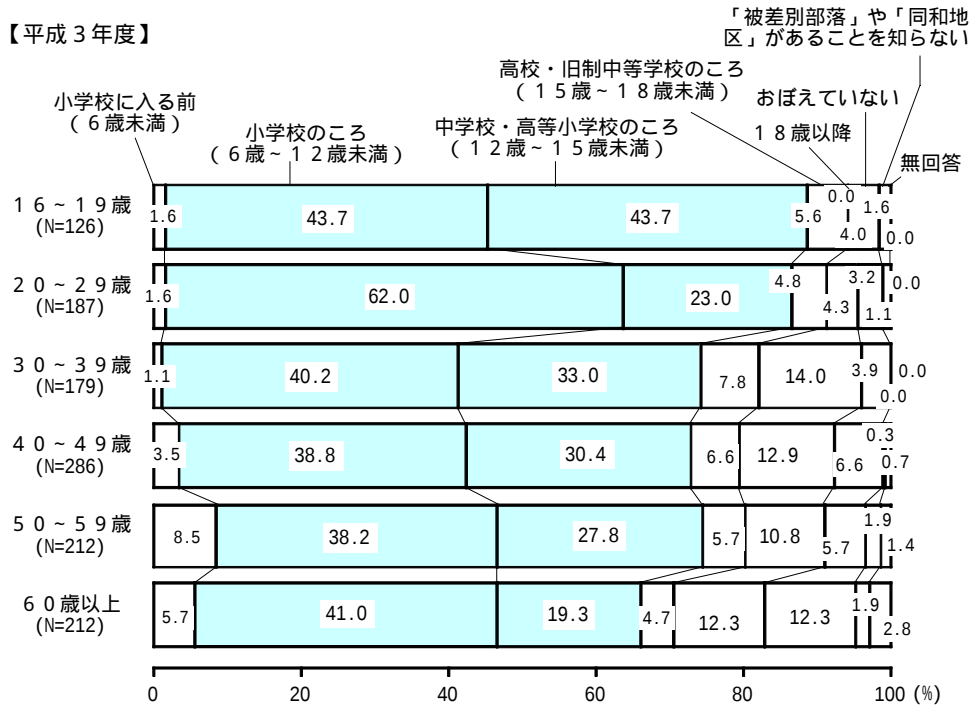
同和地区を初めて知った時期をみると、平成3年と変わらず「小学校のころ（6歳～12歳未満）」（43.8%）が最も多く、次いで「中学校・高等小学校のころ（12歳～15歳未満）」（24.6%）となっています。15歳までに認知している人が全体の約7割を占めています。

【年齢別】

【平成10年度】



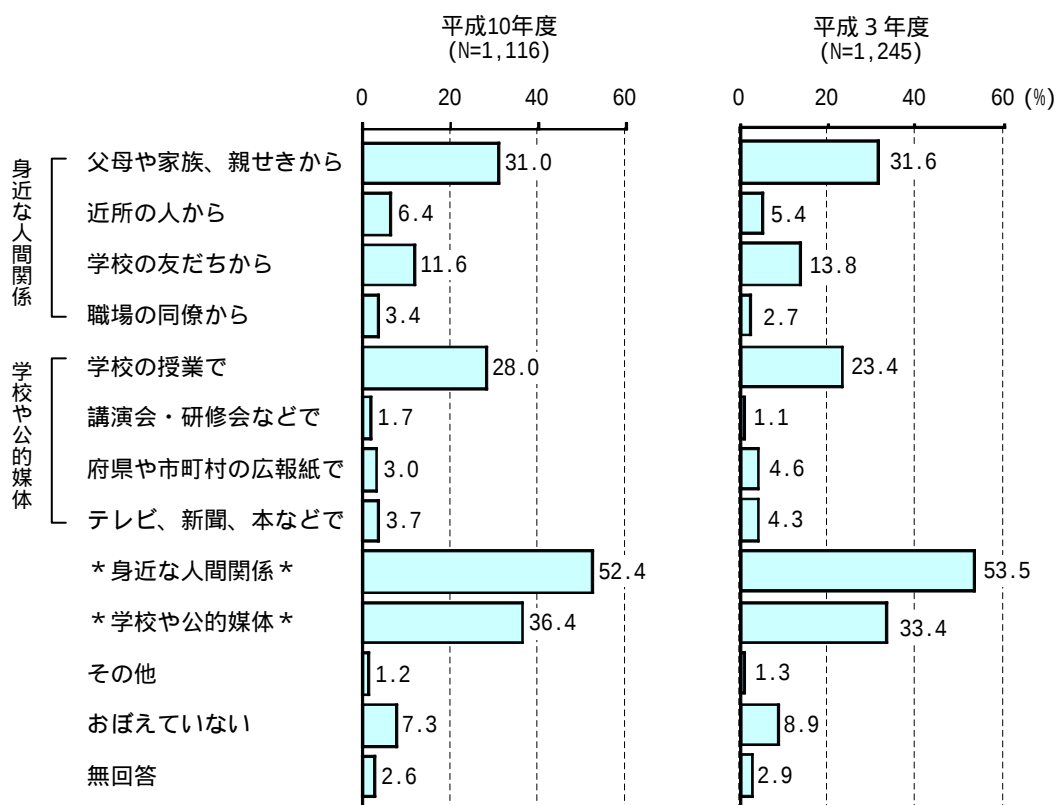
【平成3年度】



年齢別にみると、いずれの年齢層も「小学校のころ（6歳～12歳未満）」に認知している人の割合が最も高くなっており、特に20～30歳代では約6割と過半数を占めています。30歳代で「小学校のころ（6歳～12歳未満）」に認知している人の割合は平成3年度に比べ増加しています。

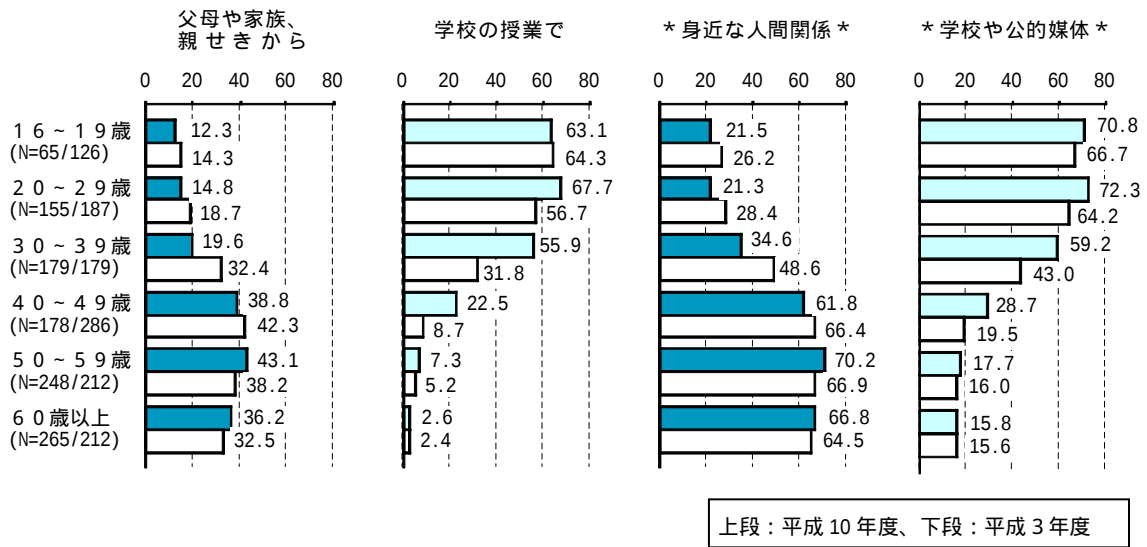
●同和地区の認知経路

問9．あなたは、同和地区があることを、はじめて知ったのはどのようにしてですか
(○は1つ)



同和地区を初めて知った経路は、「父母や家族、親せきから」(31.0%)、「学校の授業で」(28.0%)が多くなっており、身近な人間関係を通じて知った人は52.4%、学校や公的媒体を通じて知った人は36.4%となっています。平成3年度と比べても大きな変化はみられません。

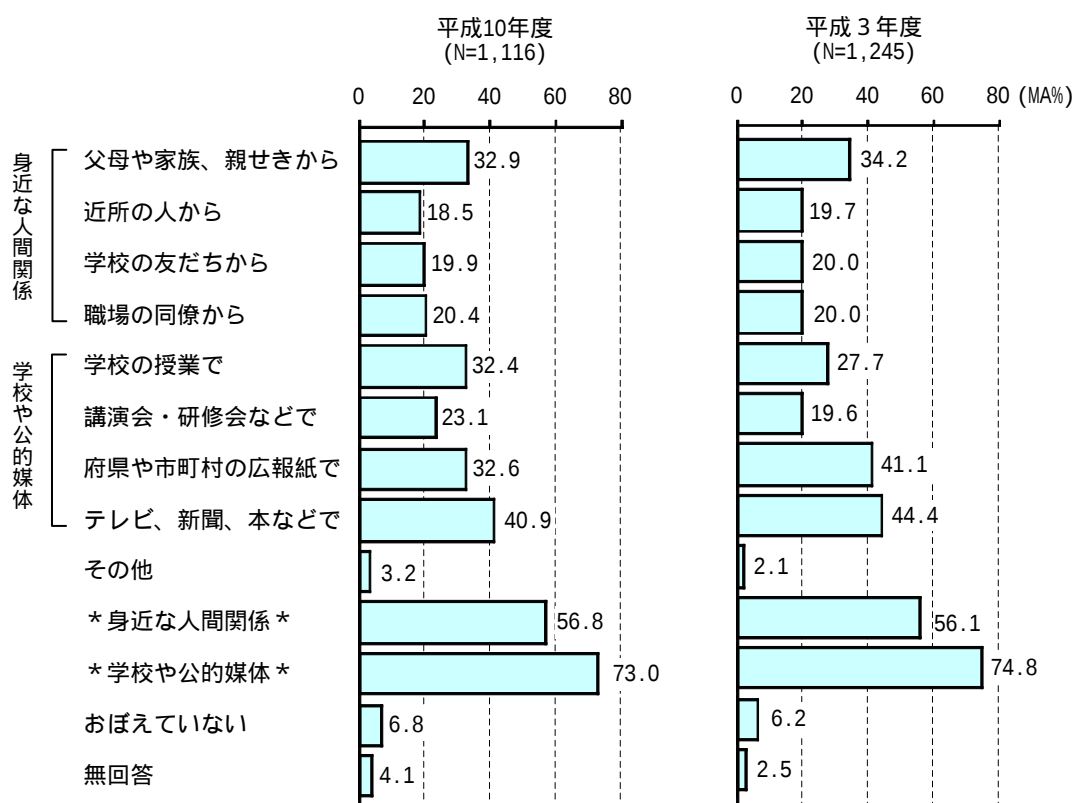
【年齢別】



年齢別にみると、40歳以上は「父母や家族、親せきから」、39歳以下は「学校の授業で」を通じて認知している人の割合が最も高くなっています。若い年齢層では学校や公的媒体、中高年齢層では身近な人間関係を通じて認知している人が過半数を占めています。平成3年度に比べると、30～40歳代で「学校の授業で」を通じて認知している人の割合が増加しています。

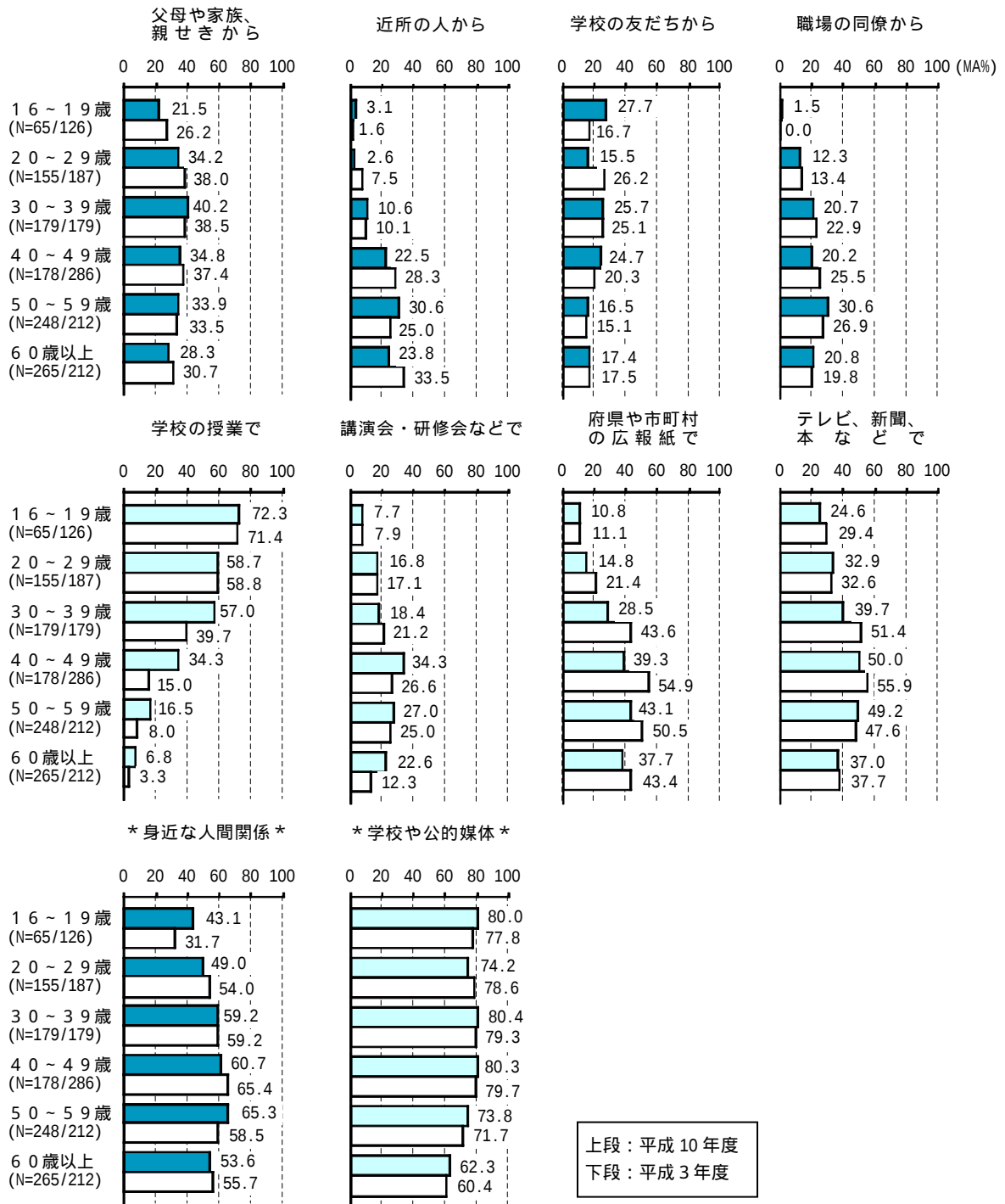
● 同和地区を知ってからの見聞き経路

問 10 . あなたは、同和地区があることをはじめて知ってから後も、同和問題について見聞きされたことがありますか（○はいくつでも）



同和地区を初めて知ってから後も同和問題について大部分の人が見聞きしており、なかでも「テレビ、新聞、本などで」(40.9%)、「父母や家族、親せきから」(32.9%)、「学校の授業で」(32.4%)などで見聞きした人が多くなっています。身近な人間関係よりも学校や公的媒体を通じて見聞きした人の方が多くなっています。平成3年度と比べても上位項目はかわらないものの、「学校の授業で」の割合はやや高くなっています。

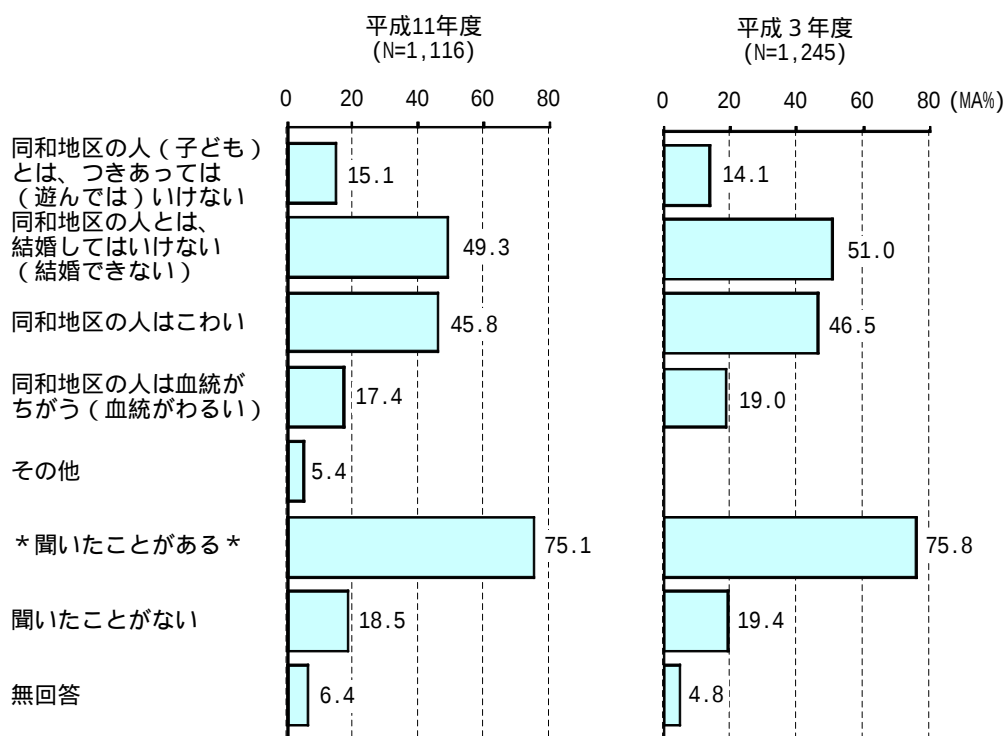
【年齢別】



年齢別にみると、「学校の授業で」は若い年齢層ほど割合が高く、39歳以下では過半数を占めています。反対に、「府県や市町村の広報紙で」、「テレビ、新聞、本などで」は年齢が上がるにつれて割合が増えています。29歳までの低年齢層では、身近な人間関係を通じて見聞きしたことがある人の割合がやや低くなっています。平成3年度に比べると、30~40歳代の「学校の授業で」から見聞きしている人の割合が増えています。

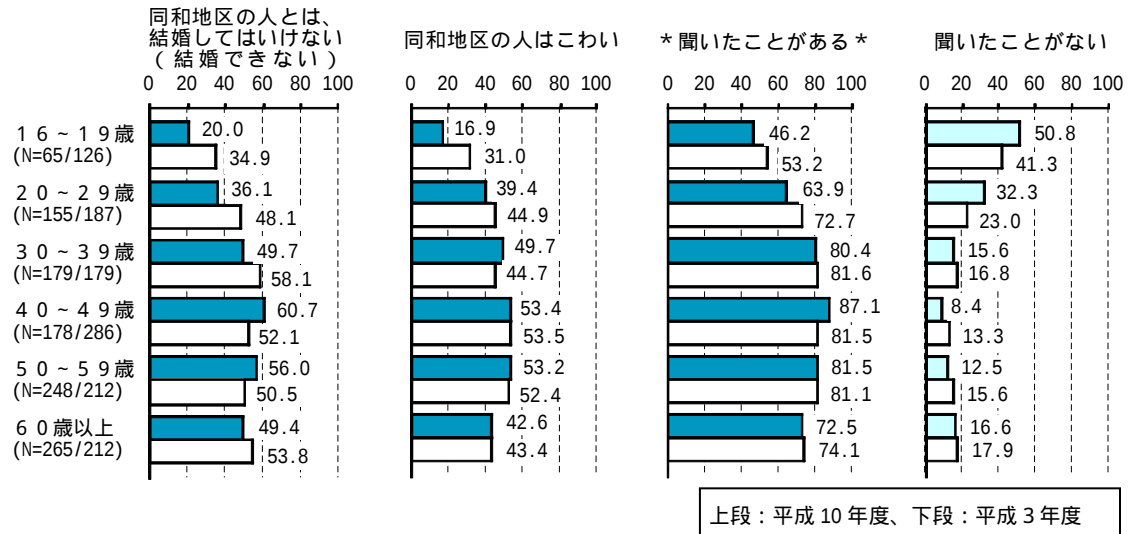
● 同和地区住民について聞いたこと

問 11 . あなたは、今までに同和地区の人について、次のようなことを聞いたことがありますか（○はいいくつでも）



同和地区住民について差別的なイメージを聞いたことのある人は 75.1%を占めており、「同和地区の人とは、結婚してはいけない（結婚できない）」（49.3%）、「同和地区の人はこわい」（45.8%）などを聞いた人が多くなっています。平成3年度と比べても大きな変化はみられません。

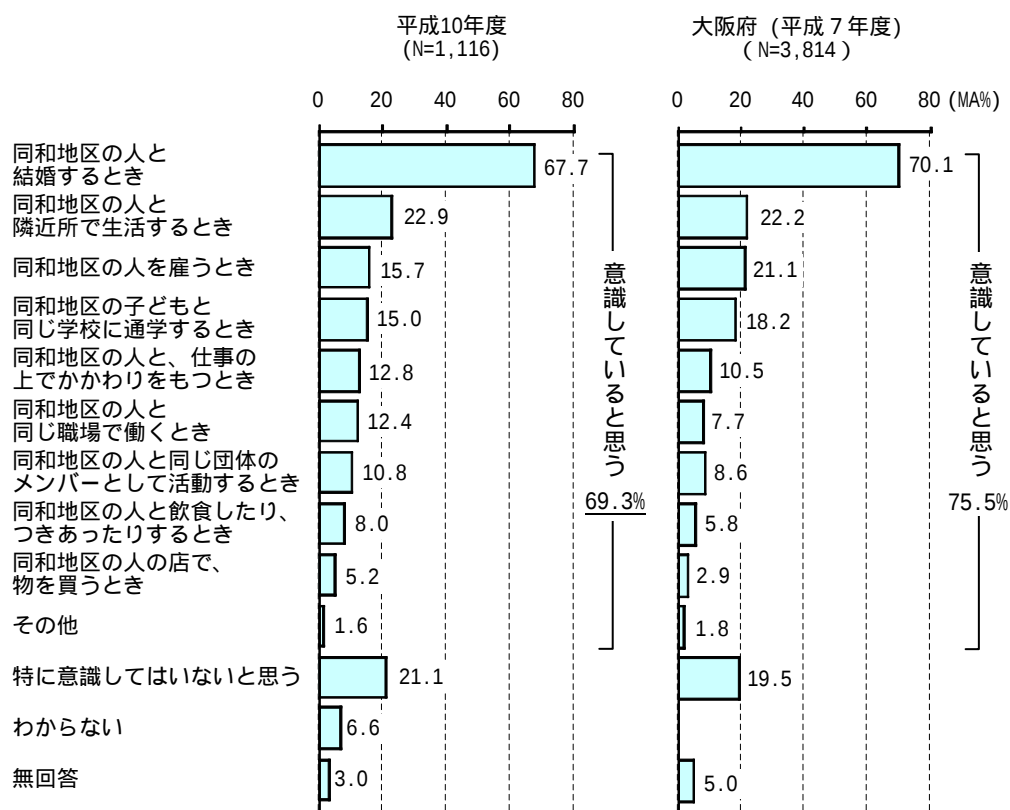
【年齢別】



年齢別にみると、10 歳代では差別的なイメージを聞いたことがない人が半数を占めています。30～50 歳代にかけては8 割以上が聞いたことがあると回答しており、「同和地区の人とは、結婚してはいけない (結婚できない)」、「同和地区の人はこわい」を聞いたことがある人も多くなっています。平成3 年度に比べると、「同和地区の人とは、結婚してはいけない (結婚できない)」は30 歳代までの割合が減少し、40～50 歳代の割合が増加しています。また、差別的なイメージを聞いたことがない人は10～20 歳代の割合が増加しています。

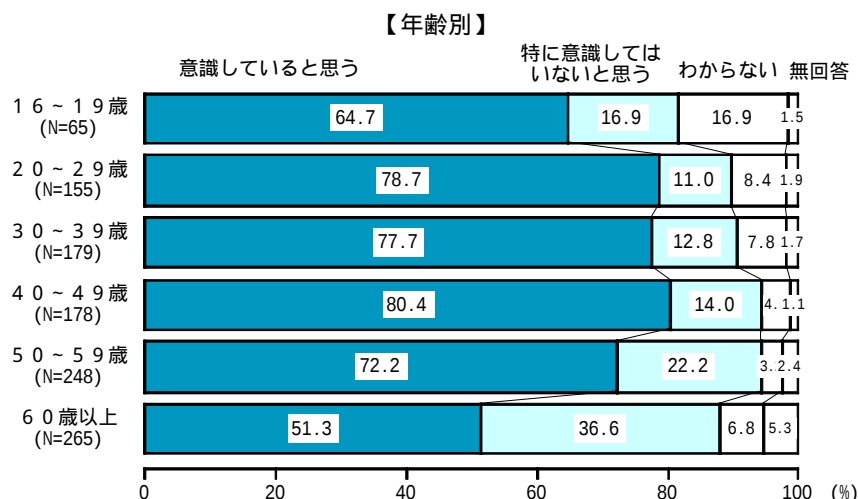
●世間の人々が同和地区住民を意識する場合

問 12. あなたは、世間の人々が、どういう場合に同和地区の人のことを気にしたり、意識しているとお考えですか（○はいいくつでも）



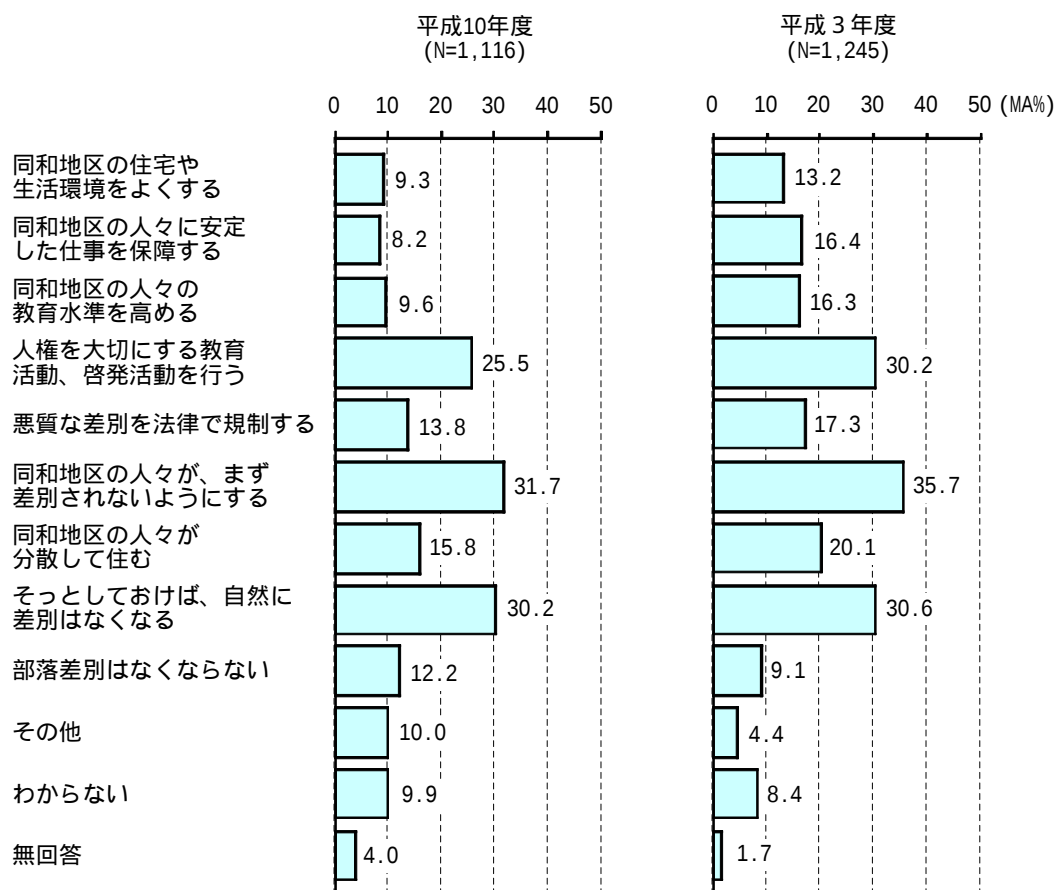
世間の人々が同和地区住民を意識する場合をたずねたところ、「同和地区の人と結婚するとき」(67.7%) が圧倒的に多くなっています。数値に開きはありますが、「同和地区の人と隣近所で生活するとき」(22.9%)、「同和地区の人を雇うとき」(15.7%)、「同和地区の子どもと同じ学校に通学するとき」(15.0%) が次いでいます。全体の69.3%は何らかの場面で意識していると考えています。大阪府の調査に比べて、意識していると考えている人の割合がやや低くなっています。

年齢別にみると、20～40歳代にかけて意識していると考えている人が多くなっています。



● 同和問題の解決策

問 13 . あなたは、同和問題の解決のためには、どうしたらよいとお考えですか（○はいくつでも）。



大阪府（平成7年度）

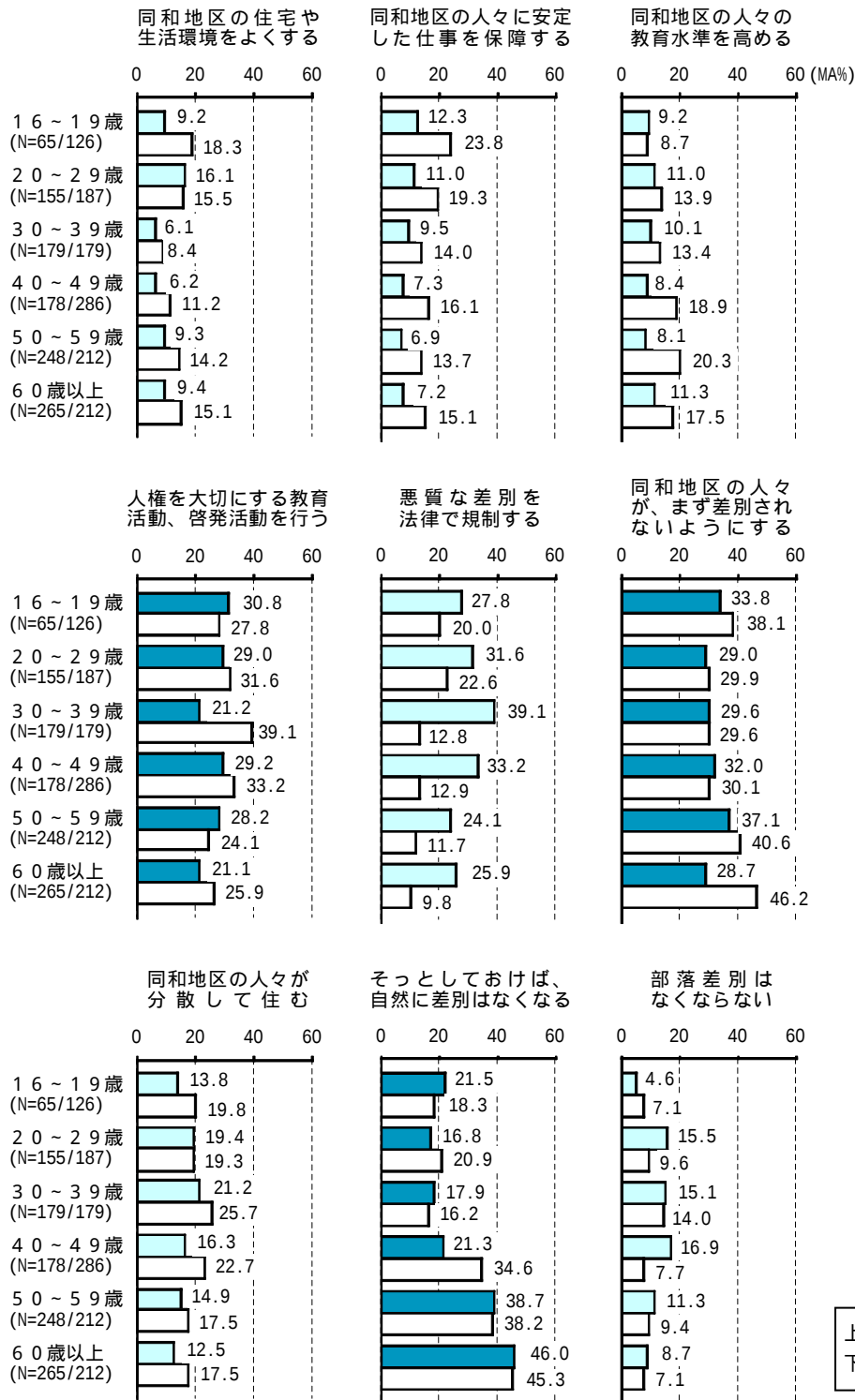
(N=3,814)

改住 善宅 ・や 整備 生活 環境 を	生同 活和 力地 を区 強の く人 す々 の	働人 き政 か々 けに 地 区 外 く	積教 極育 ・を に啓 大 行 活 動 を する	拡国 大民 ・的 強運 化動 権を 守る	法す 律で も処 罰を する	悪質 な差 別を する	住が む分 和散 地区 の 人々	差別 はば と し て 自然 に	そ と し て お け ば 、 自 然 に 差 別 は な く な る	そ の 他	はし ど ん な 部 落 と な 差 を い 別	無 回 答
4.4	3.6	6.9	24.1	6.6	3.5	13.5	16.7	2.3	6.6	11.9		

同和問題の解決策として、平成3年度と変わらず、「同和地区の人々が、まず差別されないようにする」(31.7%)、「そっとしておけば、自然に差別はなくなる」(30.2%)、「人権を大切にする教育活動、啓発活動を行う」(25.5%)などが上位にあげられています。

大阪府の調査でも同様に「人権を大切にする教育・啓発活動を積極的に行う」(24.1%)「そっとしておけば、自然に差別はなくなる」(16.7%)の回答が上位を占めています。

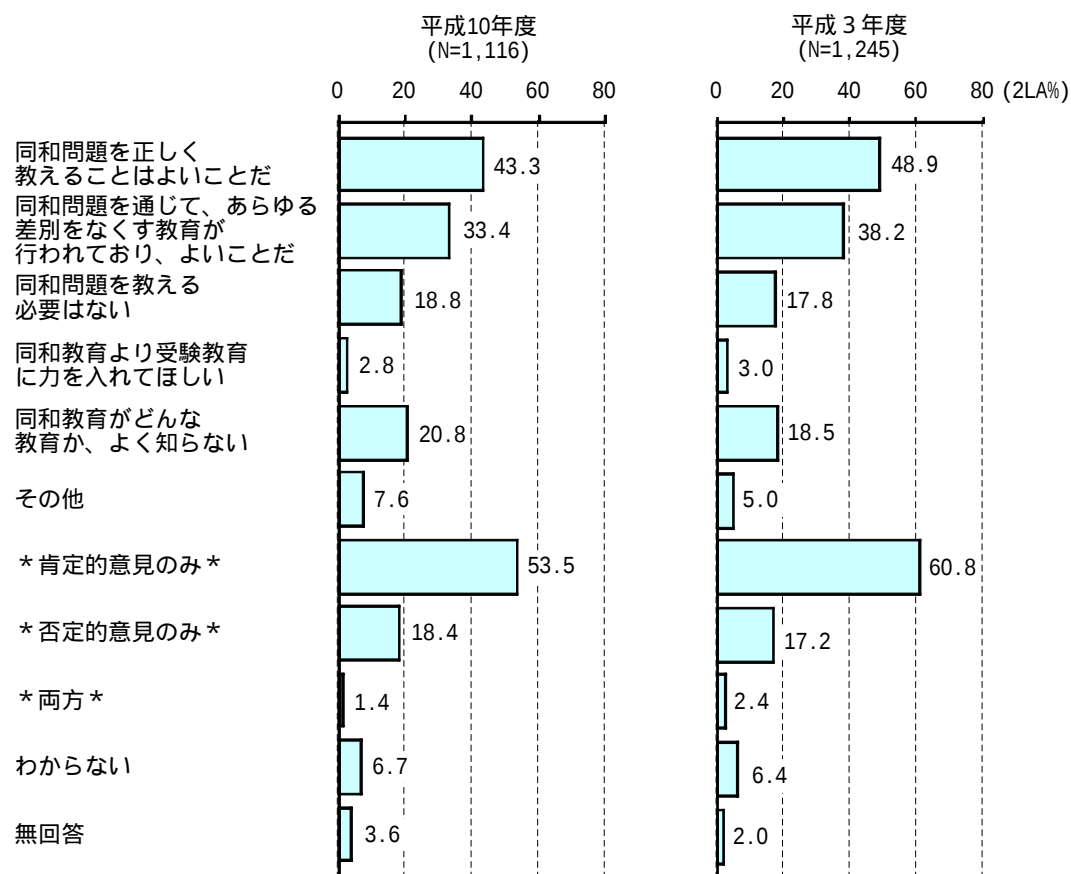
【年齢別】



年齢別にみると、「そっとしておけば、自然に差別はなくなる」は50歳以上の高齢層で3割以上を占め、高くなっています。平成3年度と比べると、「人権を大切にする教育活動、啓発活動を行う」は30歳代、「そっとしておけば、自然に差別はなくなる」は40歳以上の割合が減少しています。一方、「悪質な差別を法律で規制する」は30歳以上の中高年齢層の割合が大きく増加しています。

● 同和教育に対する考え方

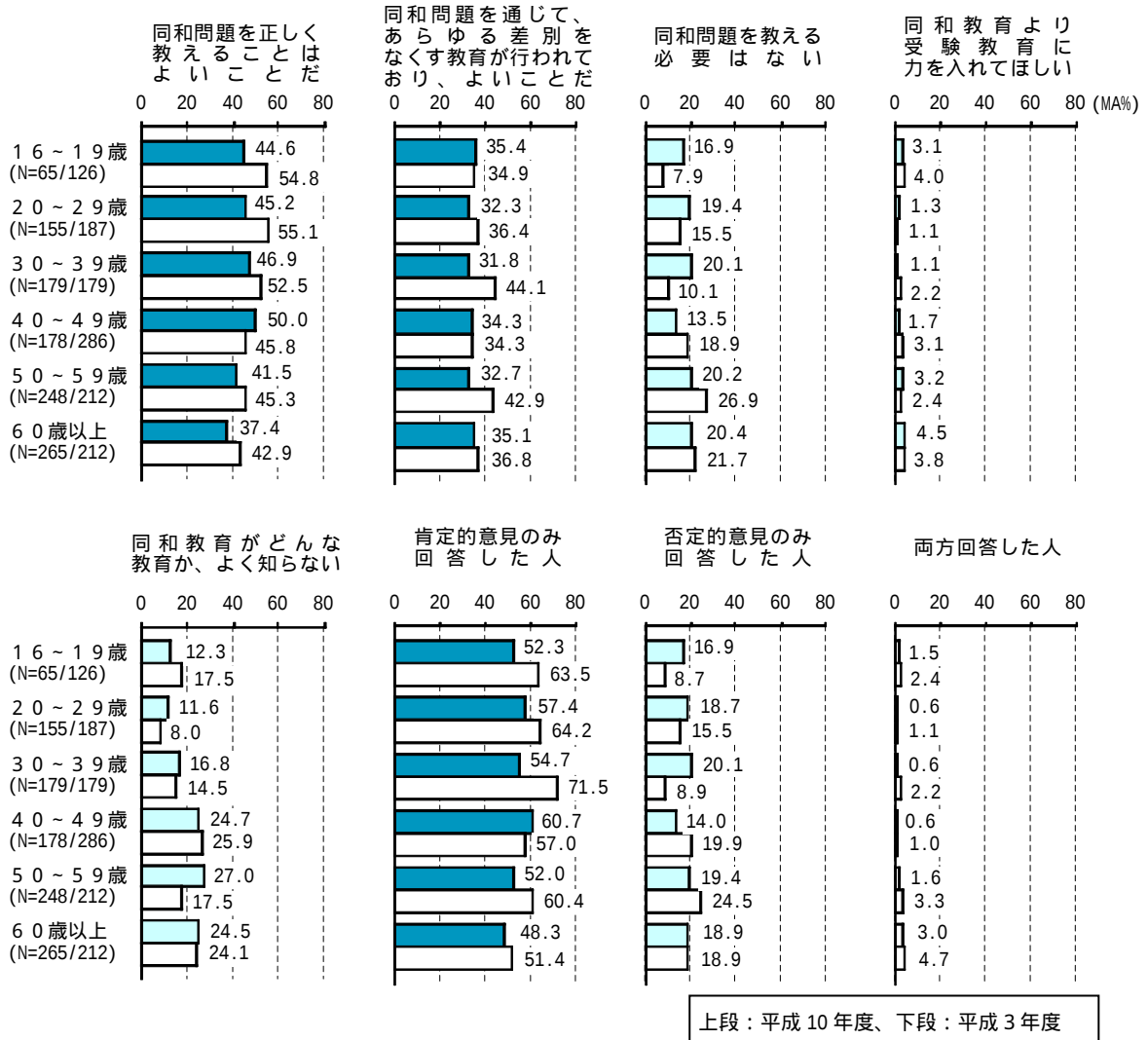
問 14 . 泉南市では、学校で「同和教育」が行われていますが、どのようにお考えでしょうか（○は2つまで）



肯定的意見のみ……「同和問題を正しく教えることはよいことだ」「同和問題を通じて、あらゆる差別をなくす教育が行われており、よいことだ」のいずれかのみ回答した人
 否定的意見のみ……「同和問題を教える必要はない」「同和教育より受験教育に力を入れてほしい」のいずれかのみ回答した人
 両方……肯定的意見と否定的意見の両方を回答した人

同和教育に対する考えをみると、「同和問題を正しく教えることはよいことだ」（43.3%）「同和問題を通じて、あらゆる差別をなくす教育が行われており、よいことだ」（33.4%）が多く、肯定的意見のみを回答している人が 53.5%と半数を占めています。平成3年度に比べ、肯定的意見のみを回答している人の割合はやや減少しています。

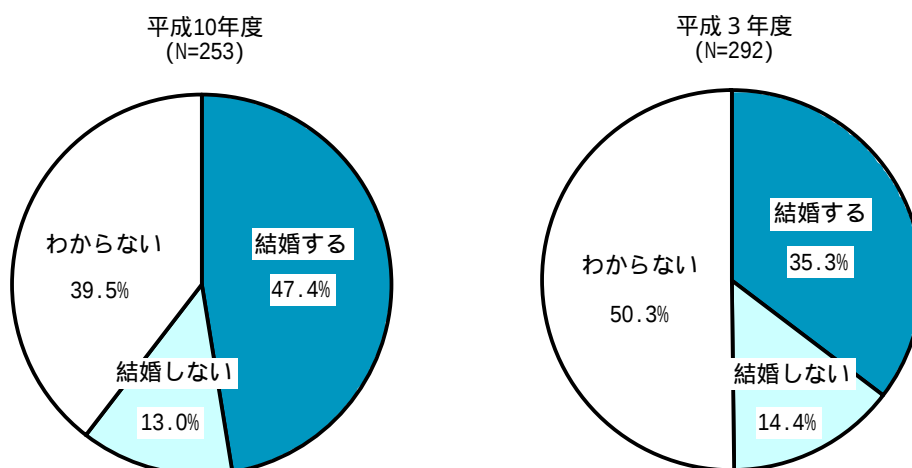
【年齢別】



年齢別にみると、「同和問題を正しく教えることはよいことだ」は60歳以上でやや低くなっており、肯定的意見のみを回答している人も48.3%と他の年齢に比べ低くなっています。一方で、「同和教育がどんな教育か、よく知らない」が40歳以上でやや高くなっており、4人に1人は回答しています。平成3年度に比べると、30歳代までの若い年齢層では肯定的意見のみを回答している人の割合が減少し、否定的意見のみを回答している人の割合が増加しています。

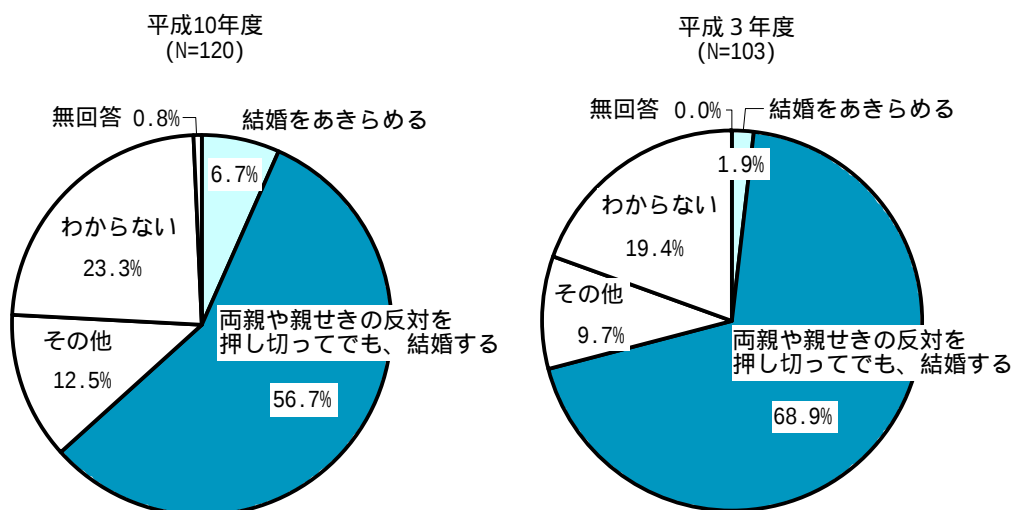
● 同和地区出身者との結婚について（結婚していない方のみ対象）

問 15 . もし、あなたが恋愛し、結婚を決めた人が同和地区の人であるとわかった場合、どうされますか（○は1つ）



（問 15 で「結婚する」をお答えの方に）

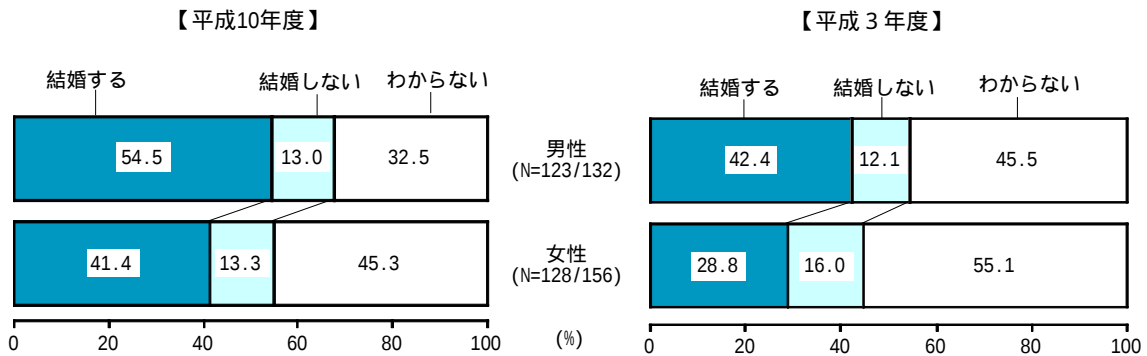
問 15 - 1 . もし、両親や親せきが「家族の縁談にさしさわりがある」などと言って、あなたが説得しても強く反対した場合、どうされますか（○は1つ）



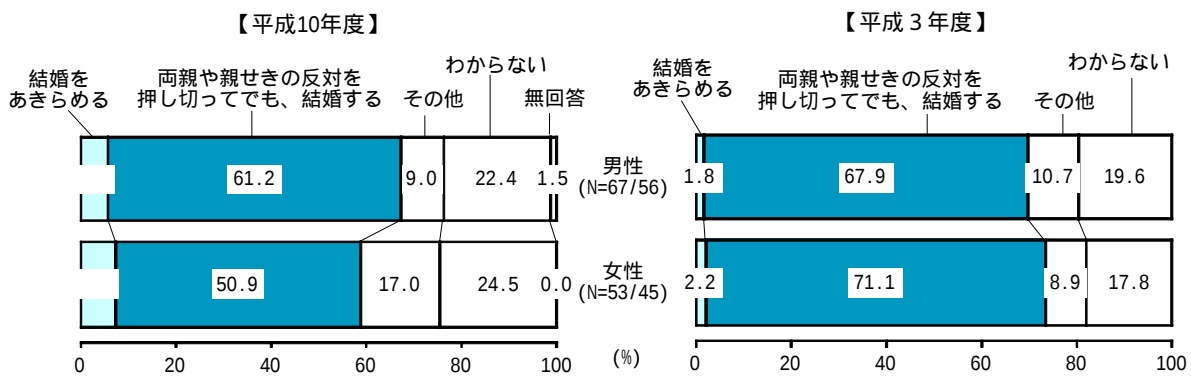
結婚をしていない方に、同和地区出身者との結婚についてたずねたところ、「結婚する」と回答した人が 47.4%であるのに対し、「結婚しない」と回答した人が 13.0%となっています。平成3年度に比べると、結婚意志のある人の割合が増えています。

結婚意志のある人が両親や親せきに結婚を強く反対された場合には、「両親や親せきの反対を押し切ってでも、結婚する」が 56.7%と最も多くなっています。平成3年度に比べ、結婚すると回答した人の割合は減少し、結婚をあきらめると回答した人の割合が増加しています。

【性別 結婚の意志】



【性別 結婚を反対された場合の対応】

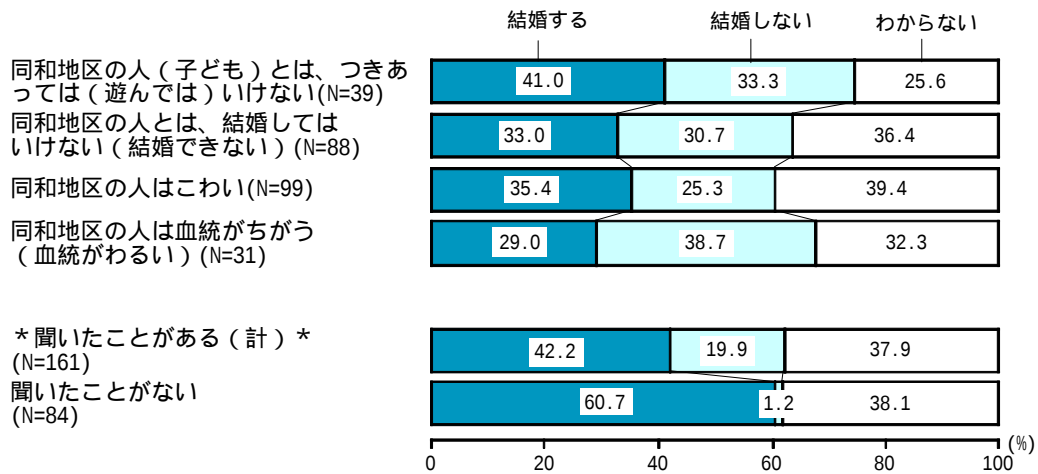


結婚の意志を性別でみると、「結婚する」と回答した人は男性が 54.5%であるのに対し、女性は 41.4%と男性の方が高くなっています。平成3年度に比べると、男女とも「結婚する」と回答した人の割合が増加しています。

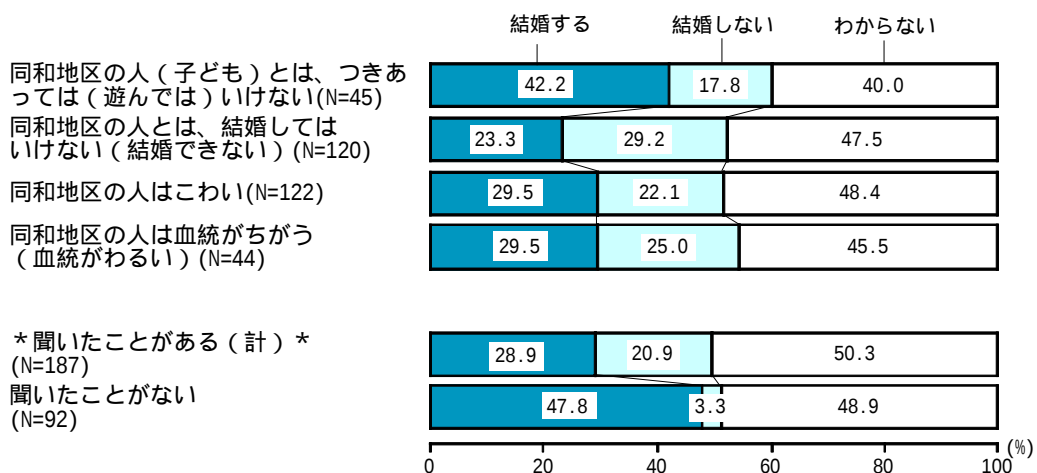
結婚を反対された場合の対応を性別でみると、全体と変わらず「両親や親せきの反対を押し切ってでも、結婚する」の回答が最も高く、女性よりも男性の方が約 10 ポイント高くなっています。平成3年度に比べて、「両親や親せきの反対を押し切ってでも、結婚する」の割合は低くなっており、特に女性の方が大きく減少しています。

【同和地区について聞いた経験別 結婚の意志】

【平成10年度】



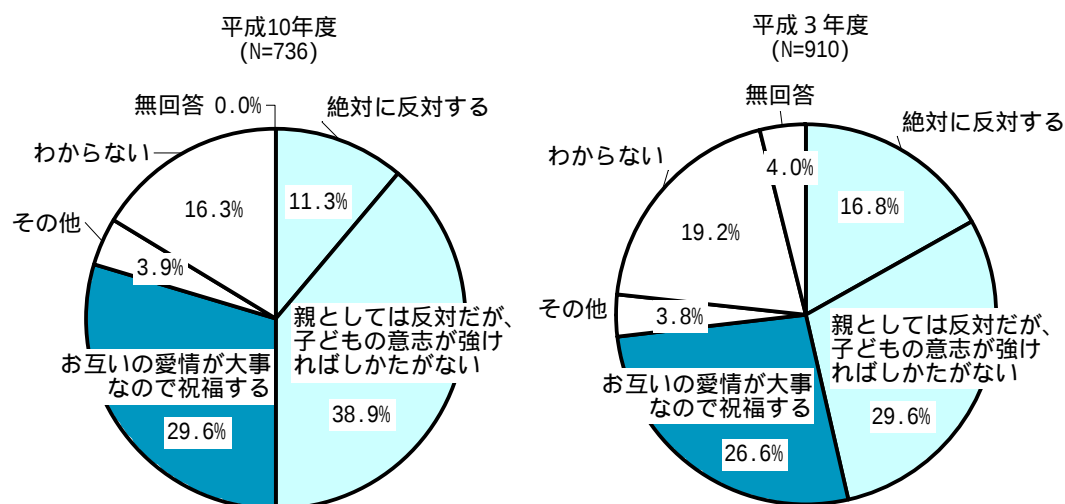
【平成3年度】



結婚の意志を同和地区について聞いた経験別にみると、「結婚する」と回答した人は、聞いたことがある人が42.2%であるのに対し、聞いたことがない人では60.7%と過半数を占めています。具体的な内容別では、同和地区の人は血統がちがう(血統がわるい)と聞いた人は、結婚しない人がする人を上回っています。また、同和地区の人とは、結婚してはいけない(結婚できない)と聞いた人でも結婚する人とししない人がほぼ同程度となっています。それ以外の項目では、「結婚する」人の方が上回っています。平成3年度に比べて、同和地区について差別的イメージを聞いたことのある人の「結婚する」の割合が高くなっています。

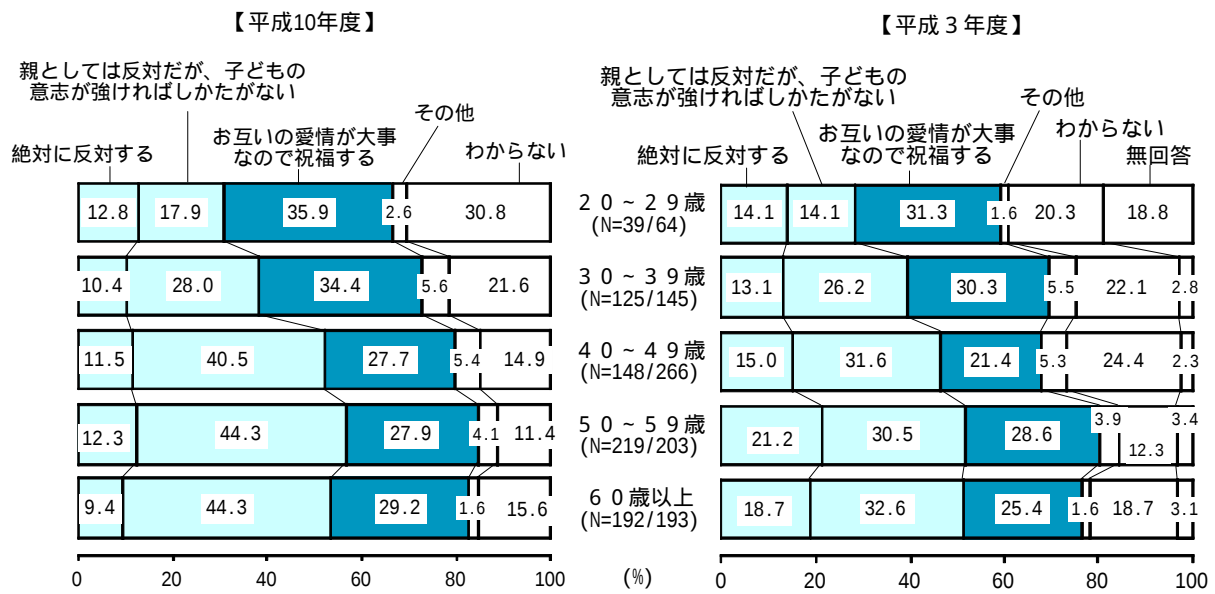
●子どもと同和地区出身者との結婚について（結婚している方のみ対象）

問 16 . もし、あなたのお子さんが、同和地区の人と恋愛し、結婚まで話が進んでいる場合、どうされますか（○は1つ）。



結婚している人の子どもと同和地区出身者との結婚についての考えをみると、「親としては反対だが、子どもの意志が強ければかたがない」が38.9%と最も多く、「お互いの愛情が大事なので祝福する」(29.6%)が次いで多くなっています。平成3年度に比べると、「絶対反対する」の割合はやや減少しています。「絶対反対する」と「親としては反対だが、子どもの意志が強ければかたがない」をあわせた反対派は、平成3年度では46.4%、平成10年度では50.2%とやや増加しています。

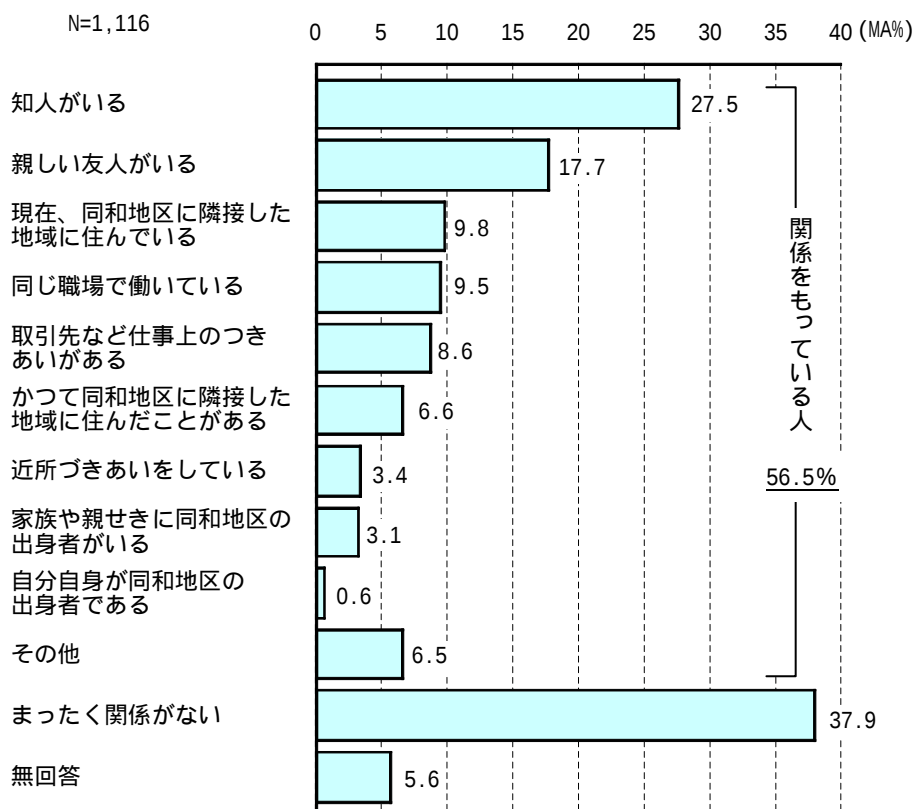
【年齢別】



年齢別にみると、20～30 歳代では「お互いの愛情が大事なので祝福する」の割合が最も高くなっていますが、40 歳以上になると「親としては反対だが、子どもの意志が強ければしかたがない」の割合が最も高くなっています。平成3年度に比べると、50 歳代以上では「絶対に反対する」の割合が低くなっています。

● 同和地区や同和地区の人々との関係

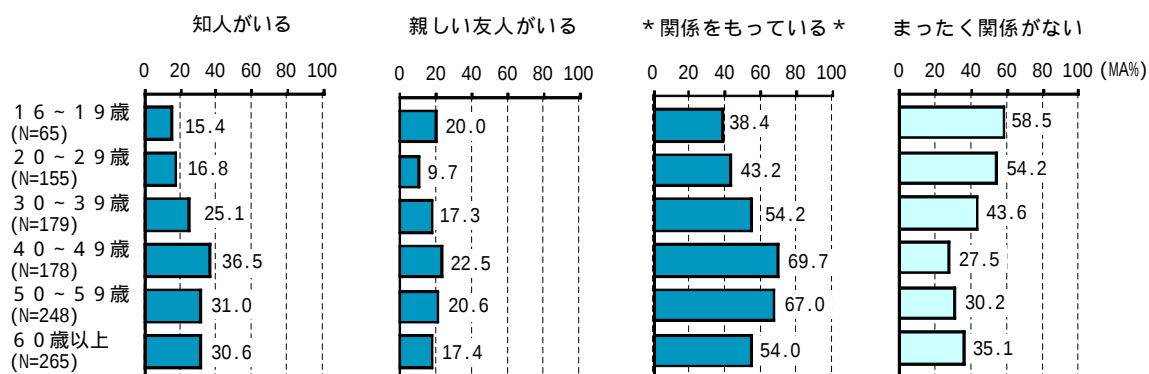
問 17. あなたは、同和地区あるいは同和地区の人びととの間に、どのような関係をおもちですか（○はいくつでも）



同和地区住民との関係をみると、何らかの関係をもっている人は 56.5%を占めており、その関係として「知人がいる」(27.5%)、「親しい友人がいる」(17.7%)が多くなっています。

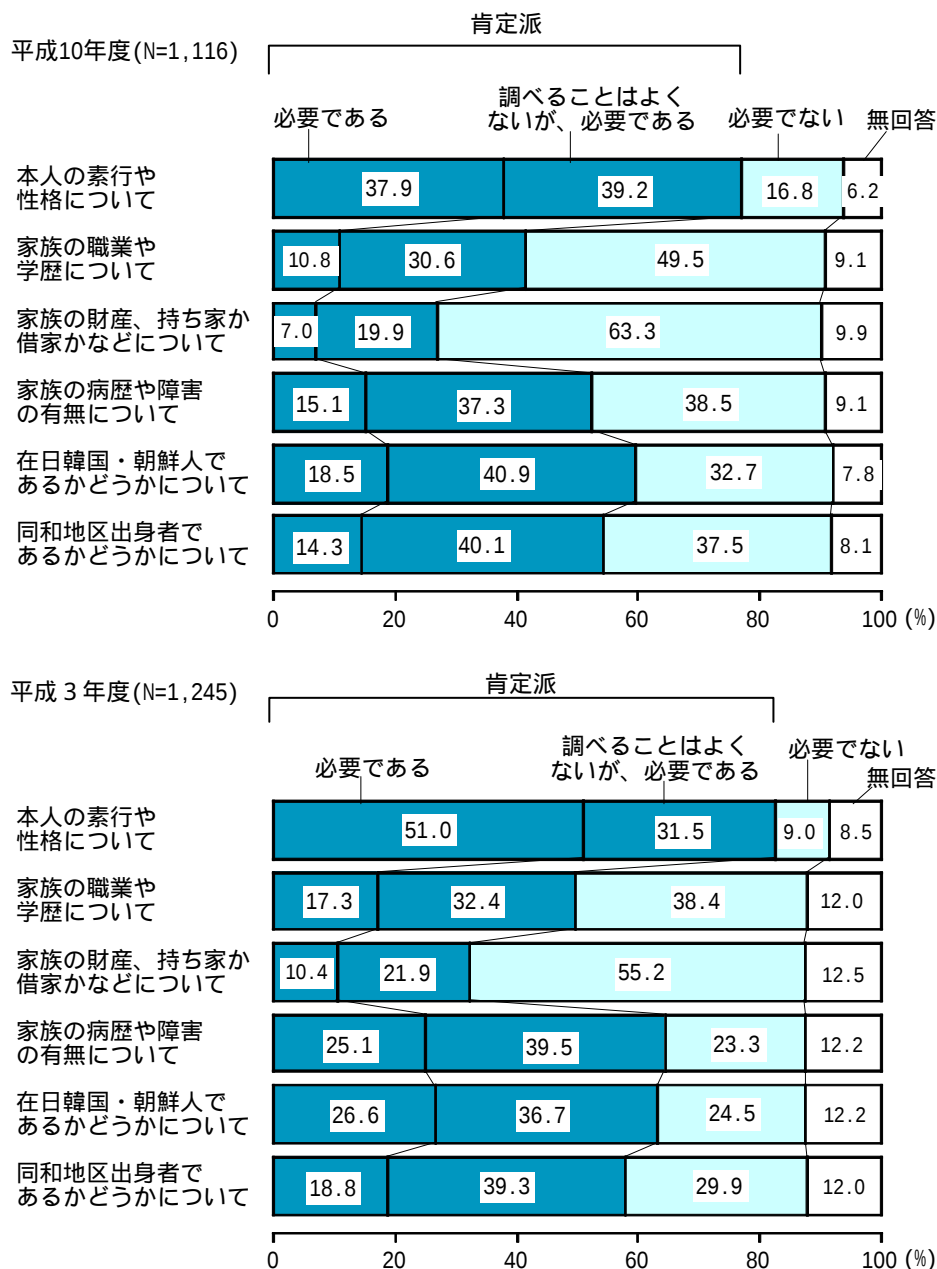
年齢別にみると、10～20 歳代は「まったく関係がない」人が半数以上を占めています。

【年齢別】



● 結婚相手の身元調査について

問 18 . あなたのお子さんの結婚相手について（お子さんがいない場合はいと仮定して） 次のようなことを調べることにについて、どのようにお考えですか（各項目それぞれについて、1～3までの番号のいずれか1つに○をしてください）

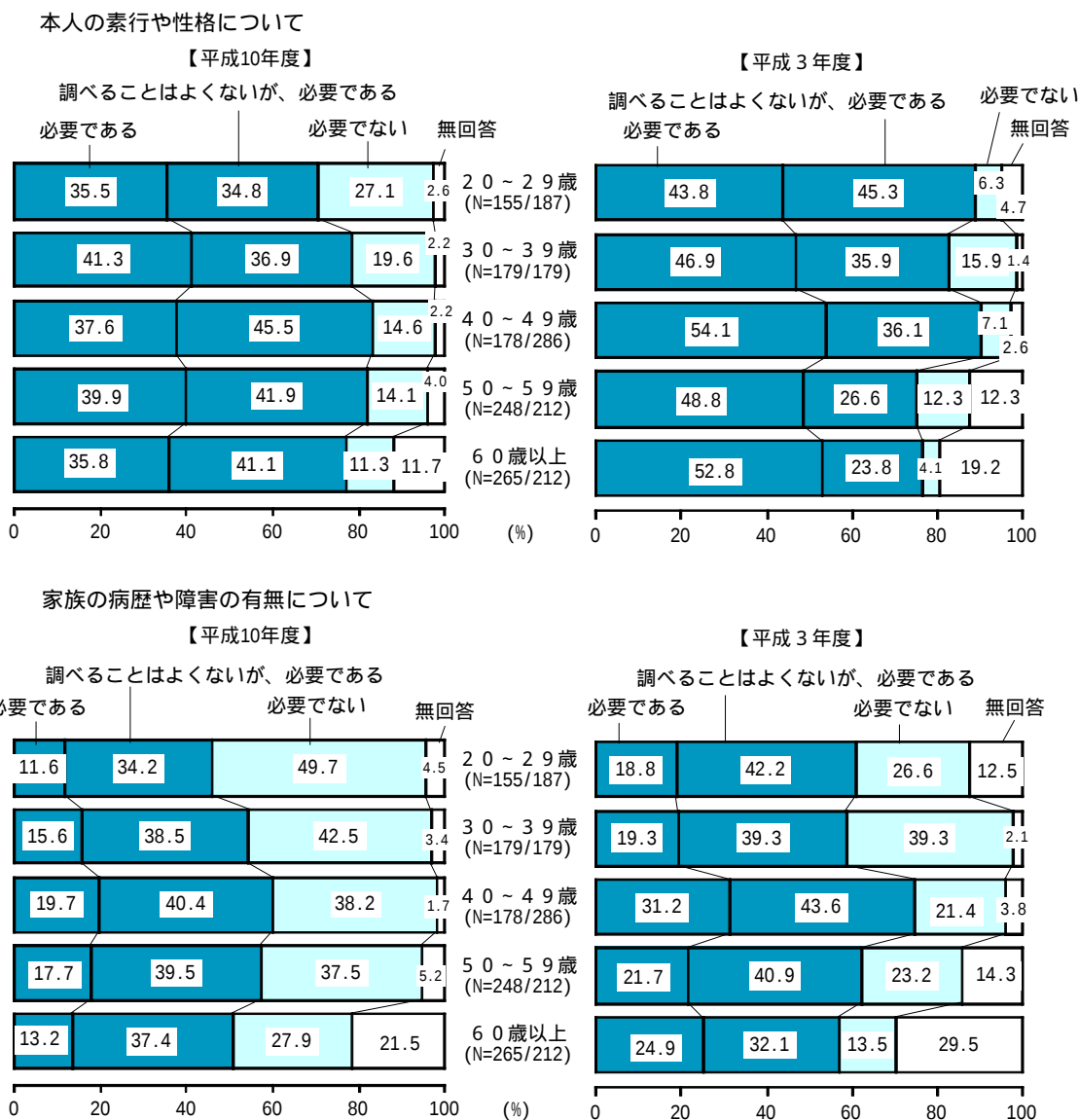


結婚相手の身元調査についての考えをみると、『本人の素行や性格について』（77.1%）、『在日韓国・朝鮮人であるかどうかについて』（59.4%）、『同和地区出身者であるかどうかについて』（54.4%）、『家族の病歴や障害の有無について』（52.4%）は半数以上が調査をすることを肯定しています。これに対し、『家族の職業や学歴について』（49.5%）、『家族の財産、持ち家か借家かなどについて』（63.3%）は必要でないと回答する人が多い

っています。

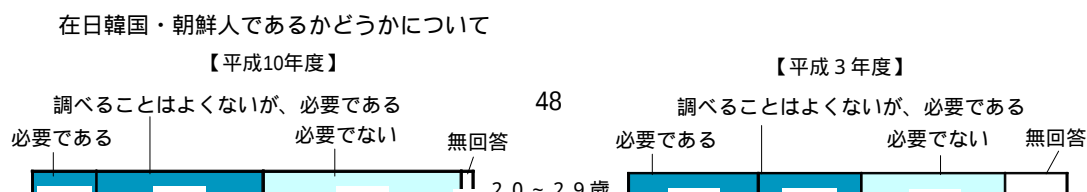
『本人の素行や性格について』、『家族の病歴や障害の有無について』、『在日韓国・朝鮮人であるかどうかについて』、『同和地区出身者であるかどうかについて』は平成3年度に比べ、身元調査を肯定する人の割合は減少していますが、それでも過半数を占めています。

【年齢別】



年齢別にみると、『本人の素行や性格について』は、いずれの年齢層も必要と考えているの方が大きく上回っており、40～50歳代では8割に達しています。平成3年度に比べると、20歳代では必要と考えていない人の割合がかなり増えています。『家族の病歴や障害の有無について』は、平成3年度には20歳代の過半数が必要と考えていますが、平成10年度になると「必要でない」が約半数を占めており、必要と考えている人を上回っています。

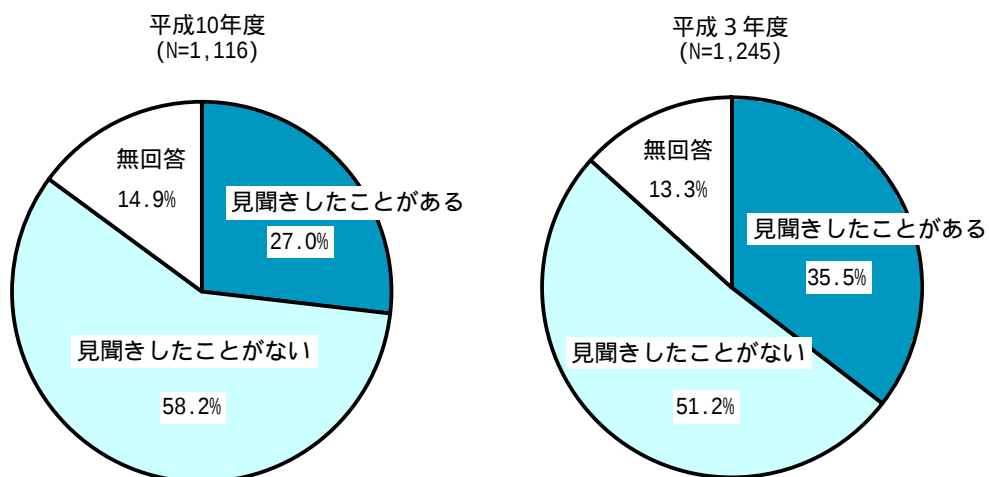
【年齢別】



年齢別にみると、『在日韓国・朝鮮人であるかどうかについて』、『同和地区出身者であるかどうかについて』は、20 歳代では半数前後が「必要でない」と考えており、年齢が上がるにつれてその割合は減少しています。平成 3 年度に比べると、30 歳代以外の年齢層では必要と考えていない人の割合が増えていますが、必要と考えている人の割合はほとんど変わっていません。

● 同和地区に対する差別的言動を見聞きした経験や行動

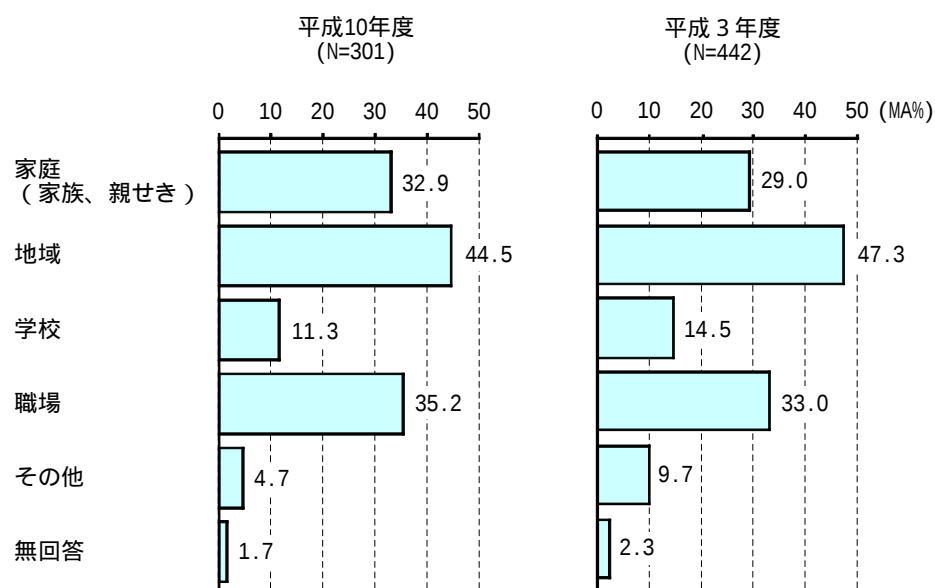
問 19 . あなたは、ここ 10 年ぐらいの間に同和地区に対する差別的な発言や行動を直接見聞きされたことがありますか（○は 1 つ）



ここ 10 年ぐらいの間に同和地区に対する差別的言動を「見聞きしたことがない」人が 58.2%と過半数を占めており、「見聞きしたことがある」人は 27.0%となっています。平成 3 年度に比べ、「見聞きしたことがある」人は減少しています。

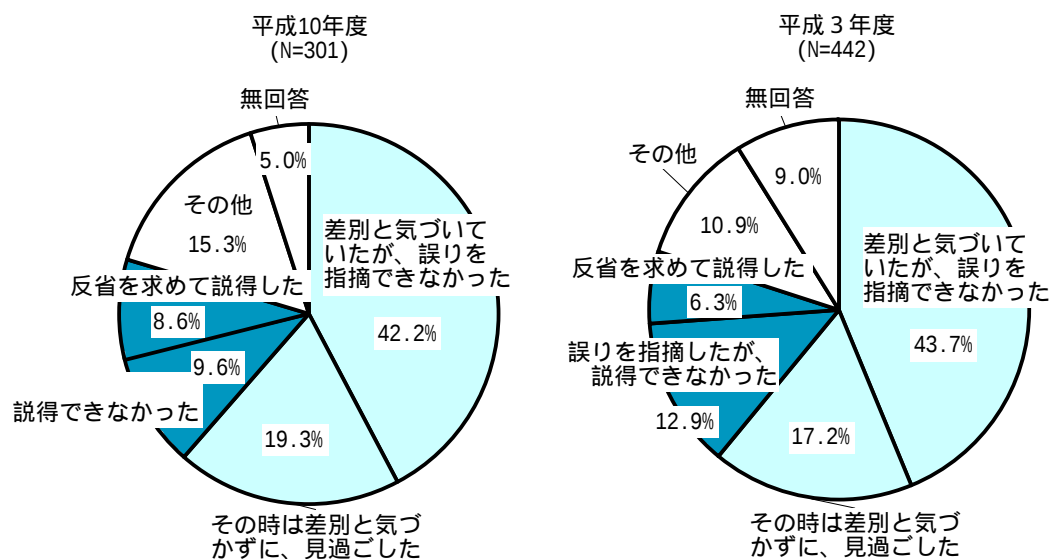
(問 19 で「見聞きしたことがある」をお答えの方に)

問 19 - 1 . どのような場面で見聞きされましたか (○はいくつでも)



(問 19 で「見聞きしたことがある」をお答えの方に)

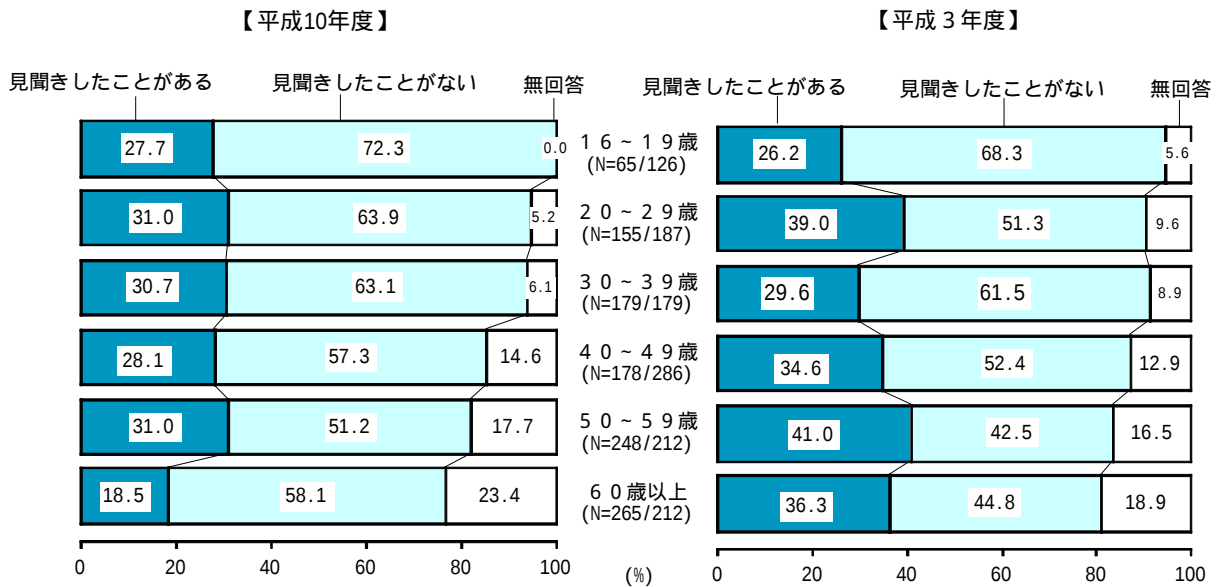
問 19 - 2 . 見聞きされた時、あなたはどうされましたか (○は1つ)



見聞きしたことがある場面として、「地域」(44.5%)、「家庭(家族、親せき)」(32.9%)、「職場」(35.2%)などが多くなっています。平成3年度と比べても大きな変化はみられません。

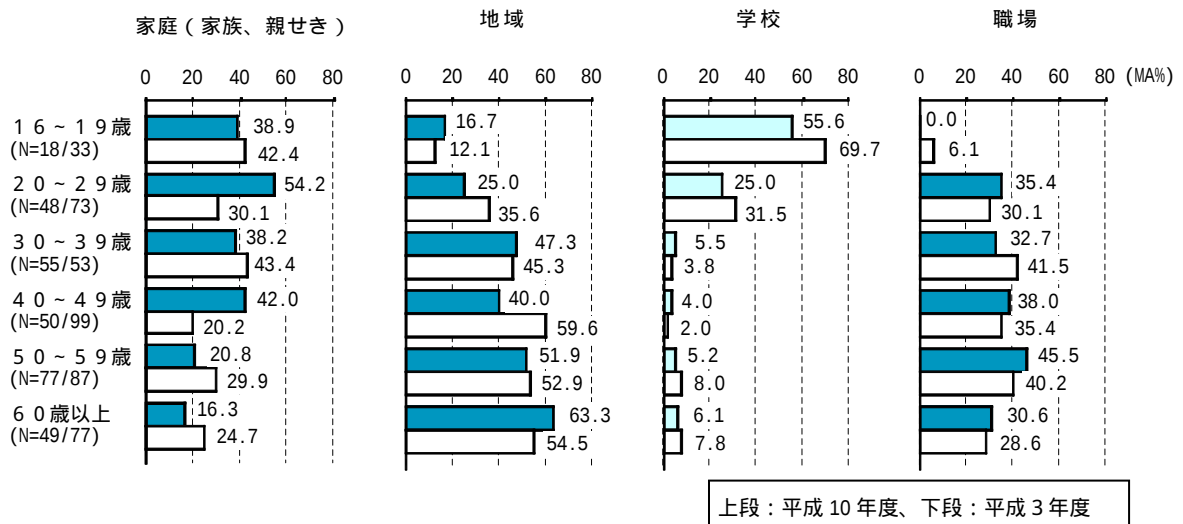
その時の行動をみると、「差別と気づいていたが、誤りを指摘できなかった」(42.2%)が最も多く、「その時は差別と気づかず、見過ごした」(19.3%)が次いで多くなっています。平成3年度と比べても大きな変化はみられません。

【年齢別 見聞きした経験】



差別を見聞きした経験を年齢別にみると、60歳以上では見聞きした経験が18.5%と他の年齢層に比べ最も低く、平成3年度の2分の1となっており、見聞きした経験のある人は減少しています。

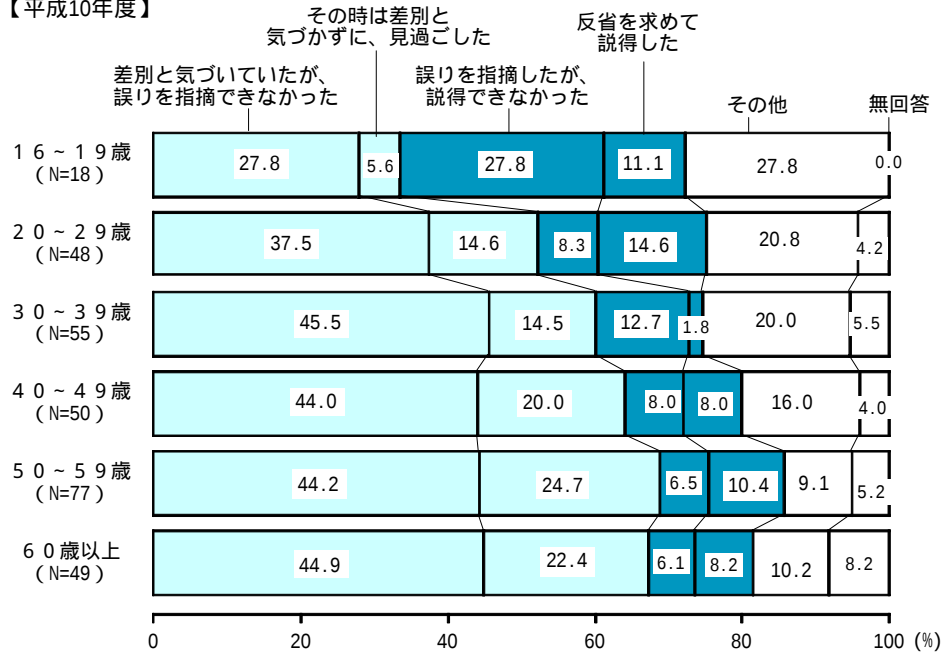
【年齢別 見聞きした場面】



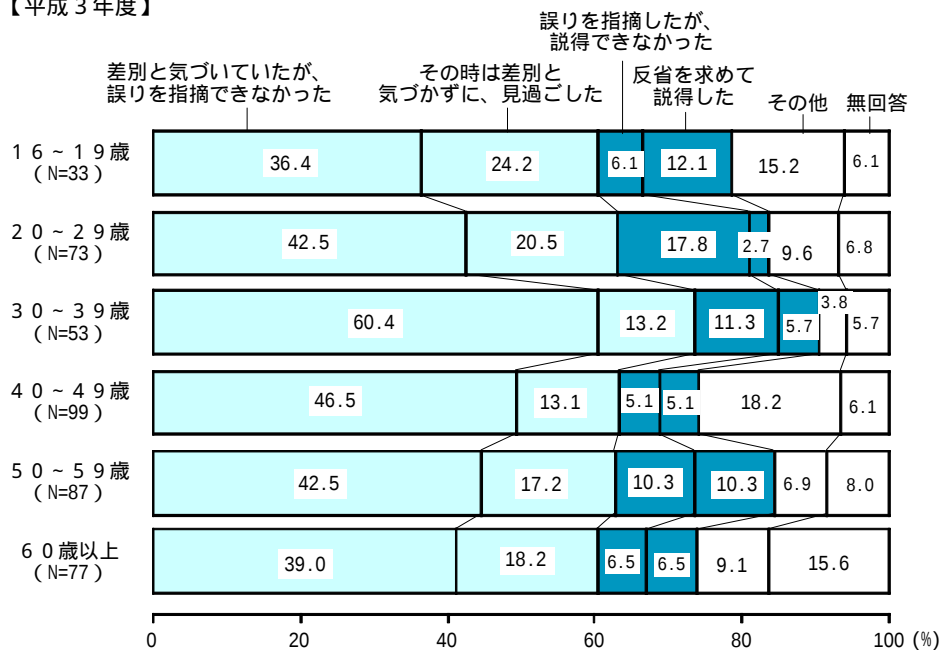
差別を見聞きした場面を年齢別にみると、「家庭（家族、親せき）」や「学校」で差別を見聞きした人は若い年代が多く、反対に「地域」で見聞きした人は年代が上がるにつれて多くなっています。平成3年度に比べると、「学校」では19歳以下、「地域」では40歳代で見聞きした人の割合が減少しています。また、「家庭（家族、親せき）」は、20歳代、40歳代で見聞きした人の割合がかなり増えています。

【年齢別 見聞きしたときの対応】

【平成10年度】



【平成3年度】

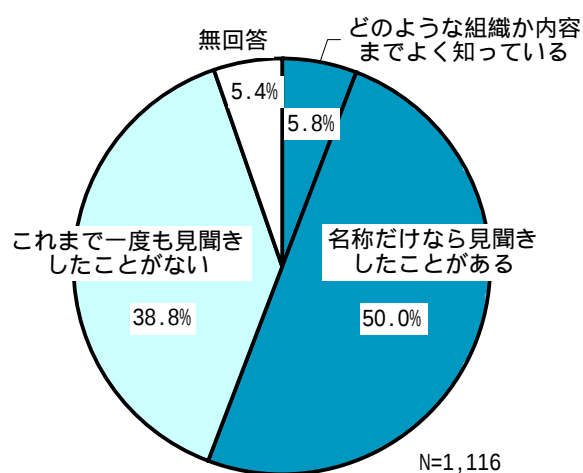


差別を見聞きした時の対応を年齢別にみると、いずれの年齢層も「差別と気づいていたが、誤りを指摘できなかった」の割合が最も高くなっていますが、19歳以下ではこれに並んで「誤りを指摘したが、説得できなかった」が同程度を占めています。「誤りを指摘したが、説得できなかった」は平成3年度に比べて19歳以下の割合が高くなっており、また20歳代では「反省を求めて説得した」の割合が高くなっています。反対に20歳代の割合が低くなっています。

3. 市の人権啓発事業に対する意識

● 「泉南市人権啓発推進協議会」に対する認知度

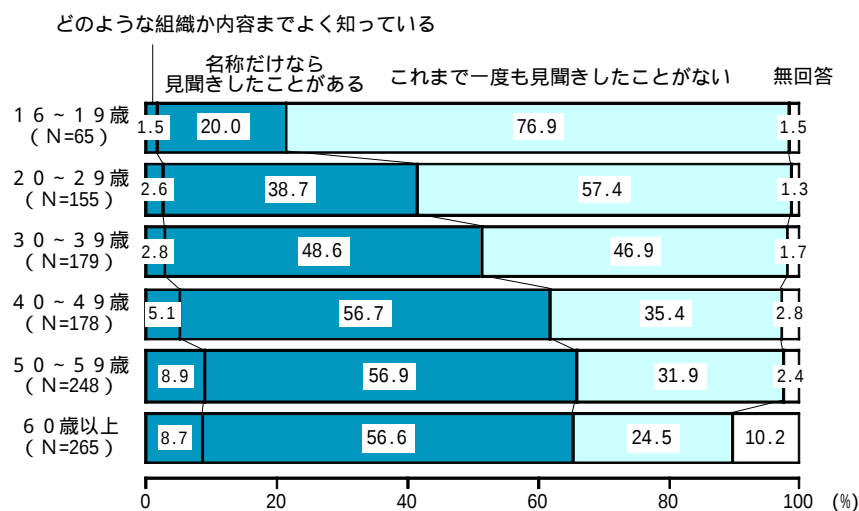
問 20 . 市では、人権問題に対する市民の理解を深め人権意識の高揚を図るために「泉南市人権啓発推進協議会」を組織し、啓発事業を行っています。あなたは、この協議会についてご存じですか（○は1つ）。



「泉南市人権啓発推進協議会」の認知度をみると、「どのような組織か内容までよく知っている」が5.8%、「名称だけなら見聞きしたことがある」が50.0%となっており、全体の認知率は55.8%となっています。

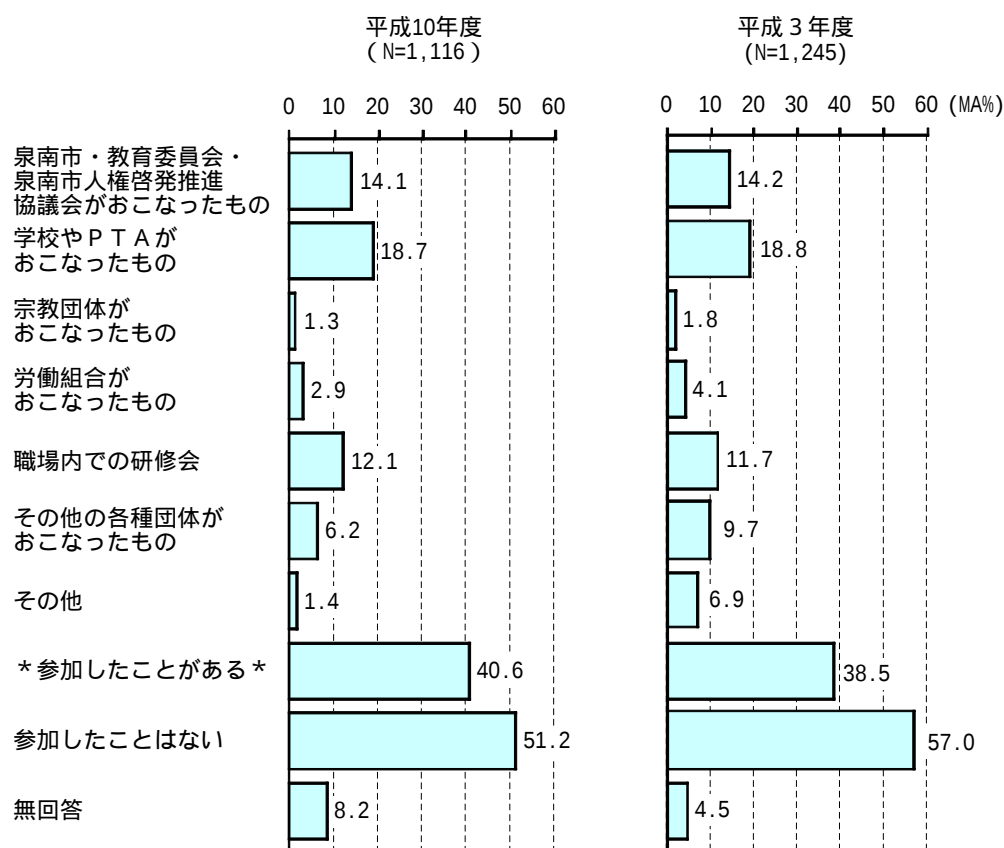
年齢別にみると、年代が若いほど認知率は低くなっています。

【年齢別】



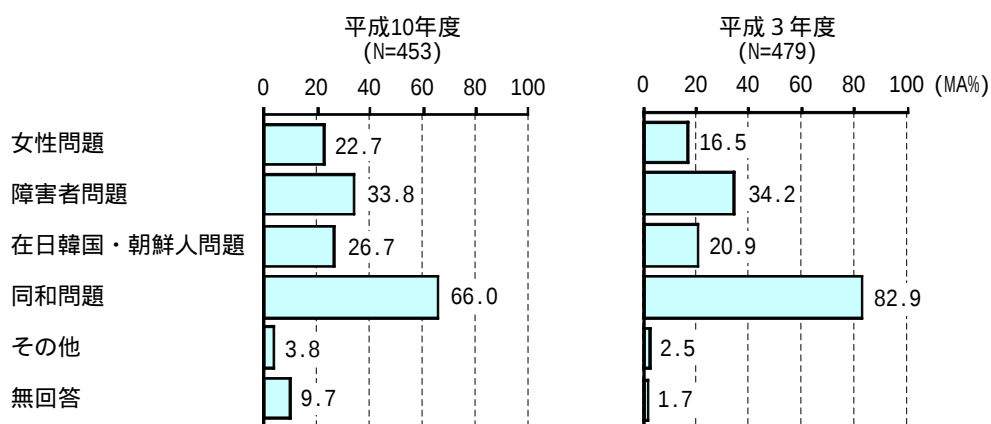
● 人権問題の講演会や研修会への参加について

問 21 . あなたが、今までに参加された人権問題の講演会や研修会をお答えください
(○はいくつでも)



< 参加経験のある方のみ対象 >

問 21 - 1 . その講演会や研修会の内容は、どのようなものでしたか(○はいくつでも)



人権問題の講演会や研修会への参加経験をみると、参加経験のある人は 40.6%を占めており、なかでも「学校やPTAがおこなったもの」(18.7%)、「泉南市・教育委員会・泉南

市人権啓発推進協議会がおこなったもの」(14.1%)を通じて参加した人が多くなっています。平成3年度と比べても大きな変化はみられません。

参加した内容として、「同和問題」(66.0%)が最も多く、次いで「障害者問題」(33.8%)となっています。平成3年度に比べると、「同和問題」への参加率は減少しており、「女性問題」、「在日韓国・朝鮮人問題」への参加率がやや増えています。

【年齢別 参加状況】

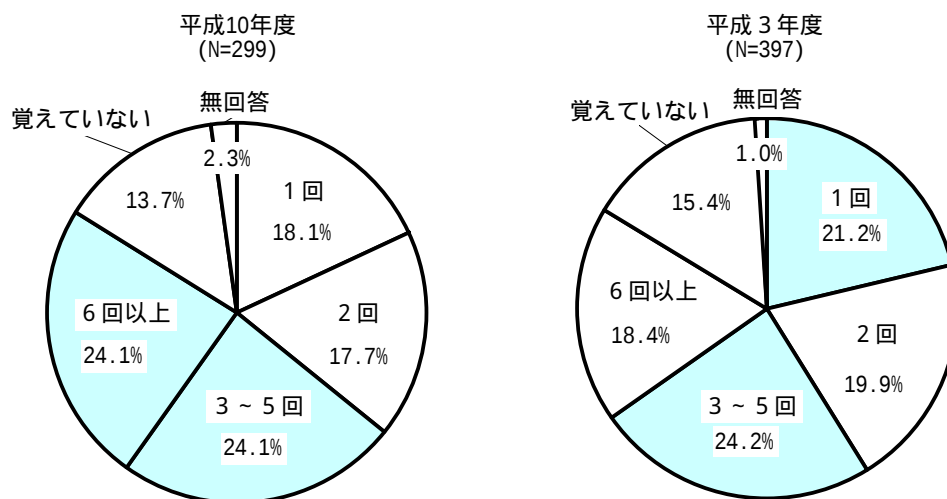
		(MA%)			参加率
		第1位	第2位	第3位	
平成 10 年度	16～19歳 (N=65)	学校やPTAがおこなったもの 29.2	泉南市・教育委員会・ 泉南市人権啓発推進協 議会がおこなったもの 6.2	その他の各種団体がお こなったもの 1.5	35.4%
	20～29歳 (N=155)	学校やPTAがおこなったもの 21.9	職場内での研修会 8.4	泉南市・教育委員会・ 泉南市人権啓発推進協 議会がおこなったもの 4.5	32.9%
	30～39歳 (N=179)	学校やPTAがおこなったもの 22.9	泉南市・教育委員会・ 泉南市人権啓発推進協 議会がおこなったもの 11.2	職場内での研修会 10.1	38.5%
	40～49歳 (N=178)	学校やPTAがおこなったもの 30.9	泉南市・教育委員会・ 泉南市人権啓発推進協 議会がおこなったもの 20.8	職場内での研修会 13.5	53.9%
	50～59歳 (N=248)	泉南市・教育委員会・ 泉南市人権啓発推進協 議会がおこなったもの 18.5	職場内での研修会 16.9	学校やPTAがおこな ったもの 14.5	44.4%
	60歳以上 (N=265)	泉南市・教育委員会・ 泉南市人権啓発推進協 議会がおこなったもの 15.5	職場内での研修会 13.6	その他の各種団体がお こなったもの 10.2	38.1%
平成 3 年度	16～19歳 (N=126)	学校やPTAがおこなったもの 31.0	泉南市・教育委員会・ 泉南市人権啓発推進協 議会がおこなったもの 2.4	その他の各種団体がお こなったもの／職場内 での研修 1.6	34.1%
	20～29歳 (N=187)	学校やPTAがおこなったもの 26.7	職場内での研修会 10.2	泉南市・教育委員会・ 泉南市人権啓発推進協 議会がおこなったもの 4.3	36.9%
	30～39歳 (N=179)	学校やPTAがおこなったもの 17.3	職場内での研修会 16.8	泉南市・教育委員会・ 泉南市人権啓発推進協 議会がおこなったもの 15.6	40.2%
	40～49歳 (N=286)	泉南市・教育委員会・ 泉南市人権啓発推進協 議会がおこなったもの 23.4	学校やPTAがおこな ったもの 19.9	職場内での研修会 18.2	46.9%
	50～59歳 (N=212)	学校やPTAがおこなったもの 17.0	泉南市・教育委員会・ 泉南市人権啓発推進協 議会がおこなったもの 15.1	職場内での研修会 11.8	38.7%
	60歳以上 (N=212)	泉南市・教育委員会・ 泉南市人権啓発推進協 議会がおこなったもの 14.1	職場内での研修会 6.6	その他の各種団体がお こなったもの 4.7	25.9%

年齢別にみると、40歳代までは「学校やPTAがおこなったもの」、50歳代以上は「泉南市・教育委員会・泉南市人権啓発推進協議会がおこなったもの」もしくは「職場内での研修会」を通じて参加した人が多くなっています。平成3年度に比べると、40歳以上では参加率が高くなっており、40歳代では「学校やPTAがおこなったもの」、50歳以上では「職場内での研修会」に参加している人の割合が増えています。

● 同和問題の講演会や研修会への参加について

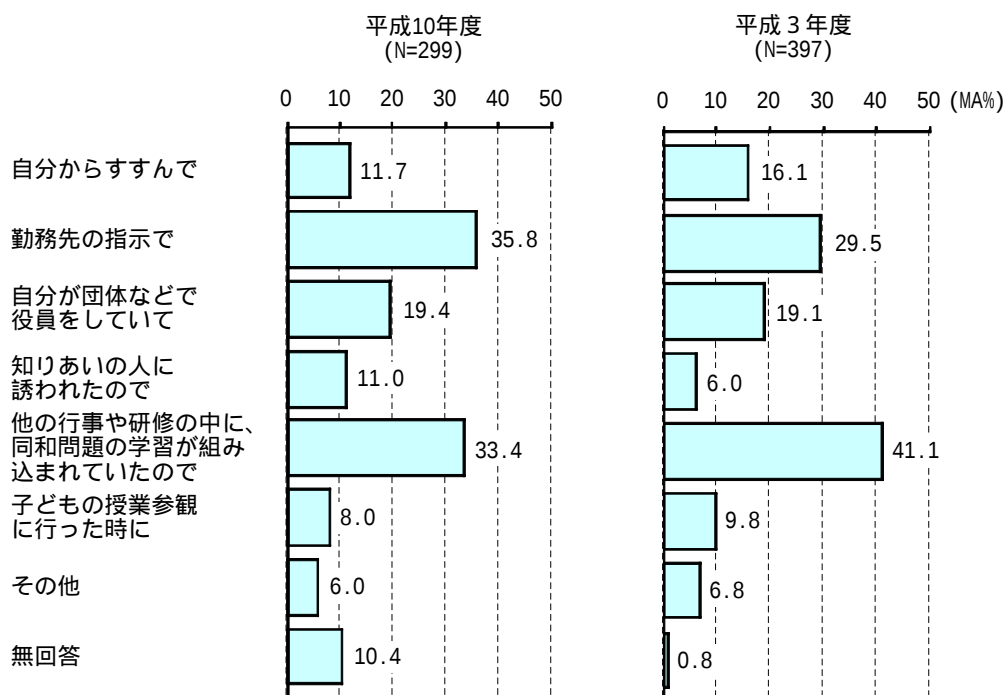
(問 21 - 1 で「同和問題」をお答えの方に)

問 21 - 2 . あなたは、問 21 - 1 でお答えになった同和問題の講演会や研修会に、今までに合計して何回ぐらい参加されましたか (○は1つ)



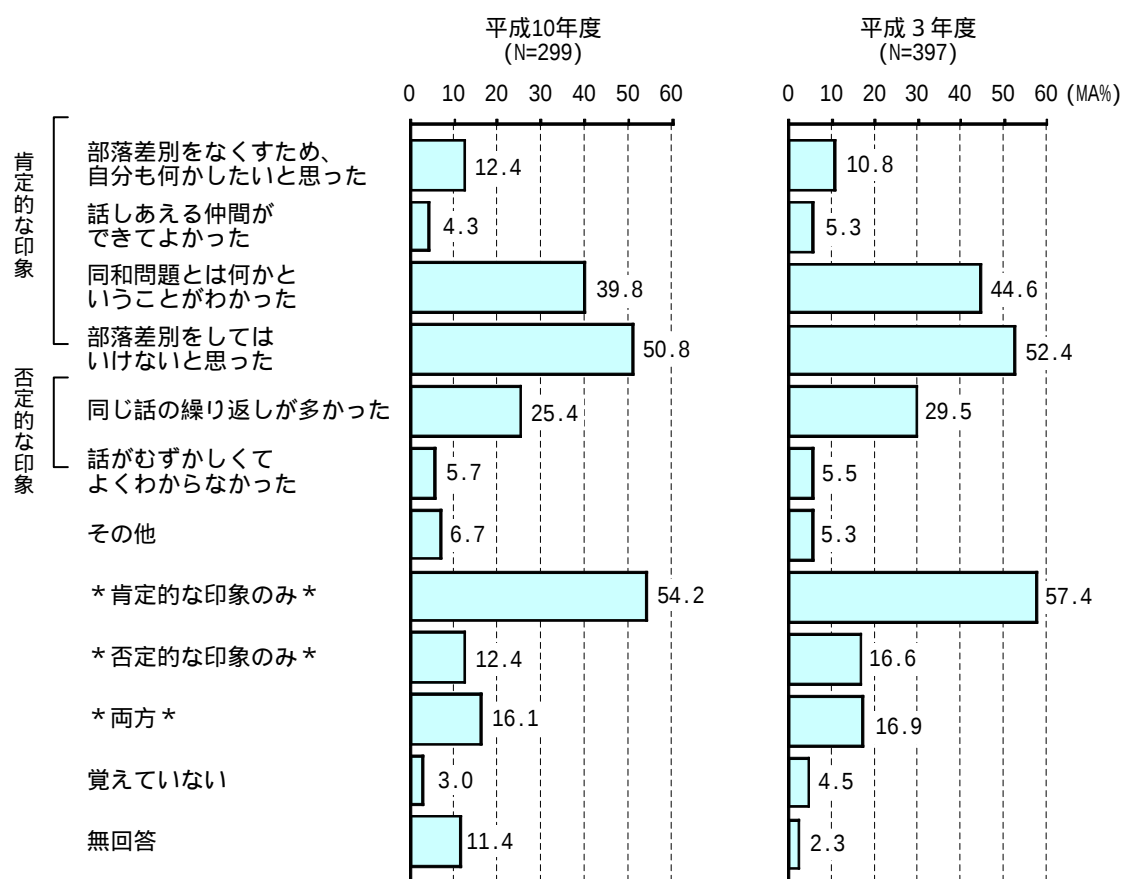
(問 21 - 1 で「同和問題」をお答えの方に)

問 21 - 3 . あなたが参加されたきっかけは何ですか (○はいくつでも)



(問 21- 1 で「同和問題」をお答えの方に)

問 21 - 4 . 参加されて、どのような印象や感想をもたれましたか(○はいくつでも)



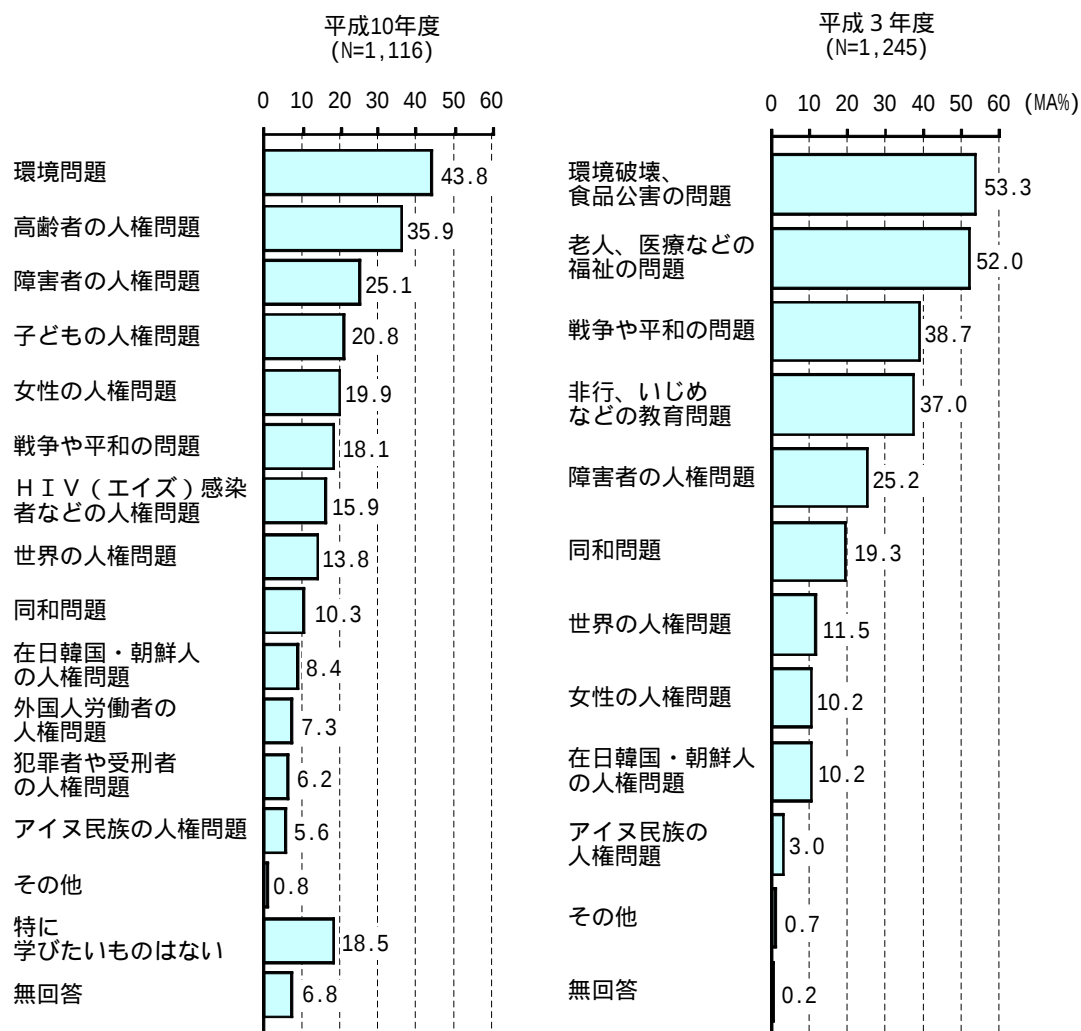
「同和問題」の講習会や研修会への参加状況を見ると、参加回数は「3～5回」「6回以上」(ともに 24.1%)が多く、3回以上が約半数を占めています。平成3年度では、「3～5回」に続いて「1回」が多く、今回の方が参加回数の多い人の割合が高くなっています。

参加のきっかけは、「勤務先の指示で」(35.8%)、「他の行事や研修の中に、同和問題の学習が組み込まれていた」(33.4%)が多くなっています。平成3年度でも上位2項目は変わらないものの、今回は「勤務先の指示で」の割合が増え、「自分からすすんで」という自発的な項目の割合は減少しています。

参加した感想は、「部落差別をしてはいけないと思った」(50.8%)、「同和問題とは何かということがわかった」(39.8%)などが多く、肯定的な印象のみ回答した人が約半数を占めています。全体では、肯定的な印象のみ回答した人が 54.2%と約半数を占めているのに対し、否定的な印象のみ回答した人は 12.4%と平成3年度に比べ、やや減少しています。

● 今後学びたい人権問題

問 22 . あなたは、人権問題の理解を深めるために、今後、学びたいことは何ですか
(○はいくつでも)



今後学びたい人権問題は、「環境問題」(43.8%)、「高齢者の人権問題」(35.9%)、「障害者の人権問題」(25.1%など)が多くなっています。平成3年度に比べると、「女性の人権問題」の割合が増え、関心は高くなっています。

泉南市民人権意識調査 報告書

< 概 要 版 >

発行年月日 1999 年 3 月

発 行 泉南市 人権推進部 人権啓発課

〒590-0592 泉南市樽井一丁目 1 番 1 号

0724 - 83 - 0001 (代表)